

山梨県  
大月市 原平遺跡

—2期棟建設による駐車場増設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成14年9月

大月市教育委員会  
大月市遺跡調査会

山梨県  
大月市 原平遺跡

——2期棟建設による駐車場増設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書——

平成14年9月

大月市教育委員会  
大月市遺跡調査会

## 例　　言

- 1 本書は山梨日本電気株式会社大月工場駐車場建設に伴う原平遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡は平成9年4月24日～同年10月17日迄本調査を実施した。
- 3 調査は大月市遺跡調査会（会長 大月市長 西室 覚）を主体者とし、大月市教育委員会 福田正人が調査にあたった。
- 4 本書は福田が作成した。
- 5 発掘調査・報告書作成にあたり、次の方々、関係機関から御教示、御協力をいただいた。記して厚く謝意を表する。  
杉本正文、青池晴彦、小西直樹、上原 学、山梨県教育委員会（順不同、敬称略）

### 発掘・整理参加者

(発掘) 天野普司・石川 実・井上繁隆・井上久子・井上文次郎・奥野久代・長田富江・柏木秀俊・鯨岡優之・久保田美弥子・小坂真代・佐藤友紀・佐藤久司・佐藤洋美・佐藤美千代・清水由紀子・奈良昌幸・幡野力也・平山和司・故藤本菊雄・藤本 聰・藤本しおり・宮野 昭・渡辺正美  
(整理) 奥野久代・佐藤裕美・佐藤美千代・佐藤裕介・清水由紀子・白石美智子・藤本しおり（敬称略）

## 凡　　例

- 1 各時代・各遺跡を分別しやすいように記号化し、組み合わせて使用した。  
時代 J-縄文 H-歴史 X-時期不明  
遺跡 D-土坑（落とし穴） T-竪穴式建物跡 O-掘立柱建物跡 M-溝跡 P-性格不明穴跡  
例 歴史時代1号住居跡 (HT-1)
- 2 掘図中に使用したスクリーントーンは カマド・粘土、 焼土
- 3 遺跡・遺物の縮尺は以下のとおりである。  
遺跡 土坑・穴跡・建物跡1/40、カマド1/20  
遺物 石器1/1、石・鉄製品1/2、他1/3

## 目 次

### はしがき

遺跡環境	8
調査に至る経過	8
調査に関する事前協議	8

### 遺跡と遺物

#### 縄文時代

竪穴住居跡	9
-------	---

土坑跡(落とし穴)	18
-----------	----

#### 歴史時代

竪穴住居跡	27
-------	----

#### 時期不明

掘建柱建物跡	40
--------	----

穴 跡	41
-----	----

溝 跡	54
-----	----

その他	55
-----	----

#### その 他

調査区内出土遺物	56
----------	----

結 び	65
-----	----

### 挿 図

第1図	遺跡位置及び周辺遺跡図
第2図	調査区位置図
第3図	第1調査区
第4図	第2調査区
第5図	第3調査区
第6図	第4調査区
第7図～第9図	JT-1(1)～(3)
第10図～第15図	JT-2(1)～(6)
第16図～第18図	JD(1)～(3)
第19図	JD(4)・JD出土遺物(1)
第20図	JD出土遺物(2)
第21図	HT-1
第22図～第25図	HT-2(1)～(4)
第26図・第27図	HT-3(1)・(2)
第28図	HT-4
第29図～第32図	HT-5(1)～(4)

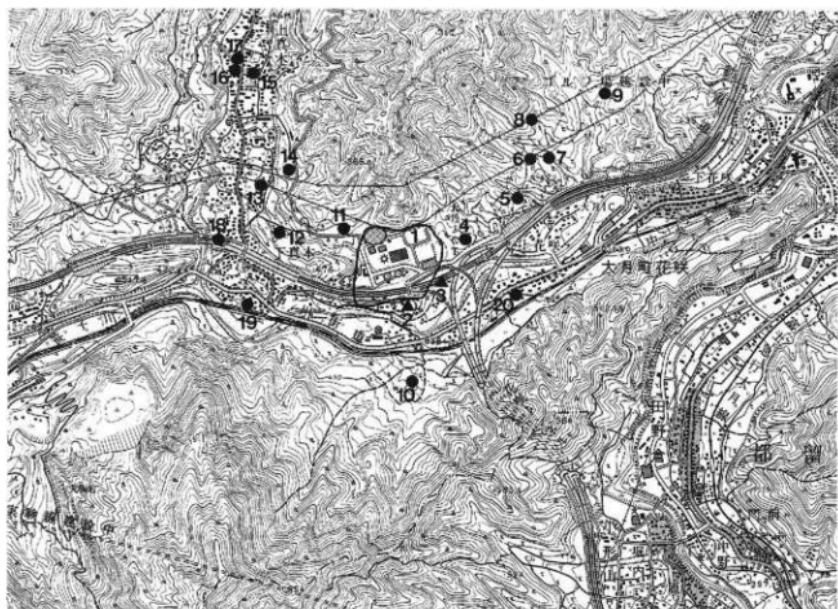
第33図・第34図	HT-6(1)・(2)
第35図	HO-1
第36図～第40図	XP(1)～(5)
第41図	XP(6)・XP出土遺物
第42図	XM-1
第43図	その他（切土整地面）
第44図・第45図	第1調査区調査区内出土遺物(1)・(2)
第46図～第49図	第2調査区調査区内出土遺物(1)～(4)
第50図・第51図	第3調査区調査区内出土遺物(1)・(2)
第52図	第4調査区調査区内出土遺物

## 表

第1表	周辺遺跡一覧
第2表	第1調査区内出土遺物
第3表	第2調査区内出土遺物
第4表	第3調査区内出土遺物
第5表	第4調査区内出土遺物

## 図 版

図版1	遺跡遠景
図版2	JT-1・2、JD-1～7・9～16
図版3	JD-17～27
図版4	HT-2～6
図版5	HO-1、第1調査区
図版6	XP-2～7・9～21・42
図版7	XP-25～38・40・41・43～45
図版8	XP-52～64、XM-1、切土整地面
図版9	JT-1・2出土遺物
図版10	JT-2出土遺物
図版11	JT-2出土遺物
図版12	JD出土遺物
図版13	HT-1・2出土遺物
図版14	HT-3・4・5出土遺物
図版15	HT-5・6出土遺物
図版16	HO-1出土遺物、XP出土遺物、XM-1出土遺物
図版17	第1・2調査区内出土遺物
図版18	第2・3・4調査区内出土遺物



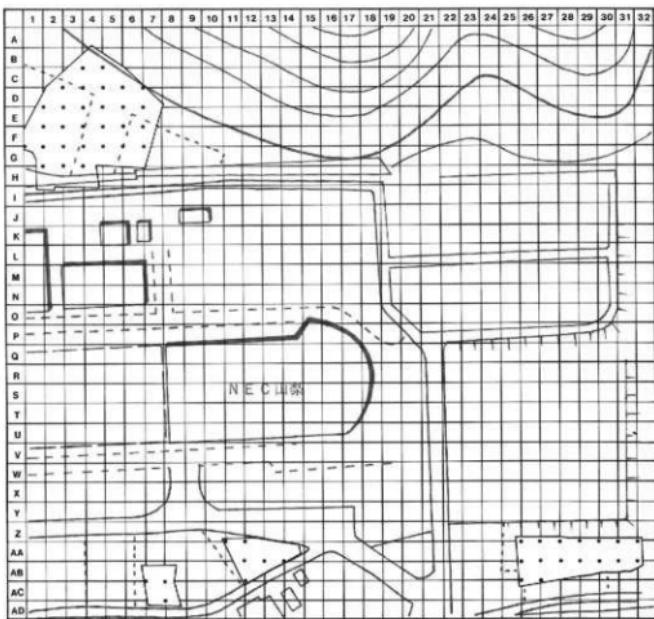
第1図 道路位置及び周辺遺跡図



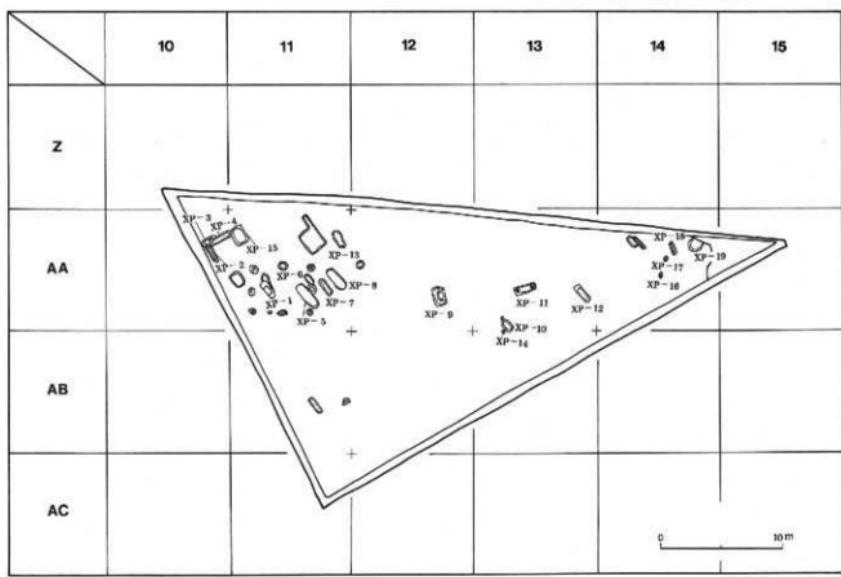
今川の調査区域

No.	遺跡名	種別	時代	No.	遺跡名	種別	時代
1	原平遺跡	集落跡	縄、弥、古、奈、平、中、近世	11	銀神遺跡	散布地	縄
2	前沢内屋敷遺跡	古墳	古	12	後小路遺跡	集落跡	縄、平
3	板田古墳	古墳	古	13	中曾根遺跡	散布地	縄
4	西ノ上A・B遺跡	散布地 古墳	縄、古、平	14	梅久保遺跡	散布地	縄
5	後林遺跡	土坑群	縄	15	根の神遺跡	散布地	縄
6	花咲鐘撞堂		中	16	上真木辻遺跡	散布地	縄
7	芝草遺跡	集落跡	平	17	太田里敷遺跡	集落跡	縄
8	寺床遺跡	坑墓群	中	18	小佐野遺跡	散布地	縄
9	孝道1・2遺跡	集落跡	縄	19	青木原遺跡	散布地	縄
10	幸ノ田遺跡	散布地	縄	20	源郷1・2・3・4 遺跡	散布地	縄

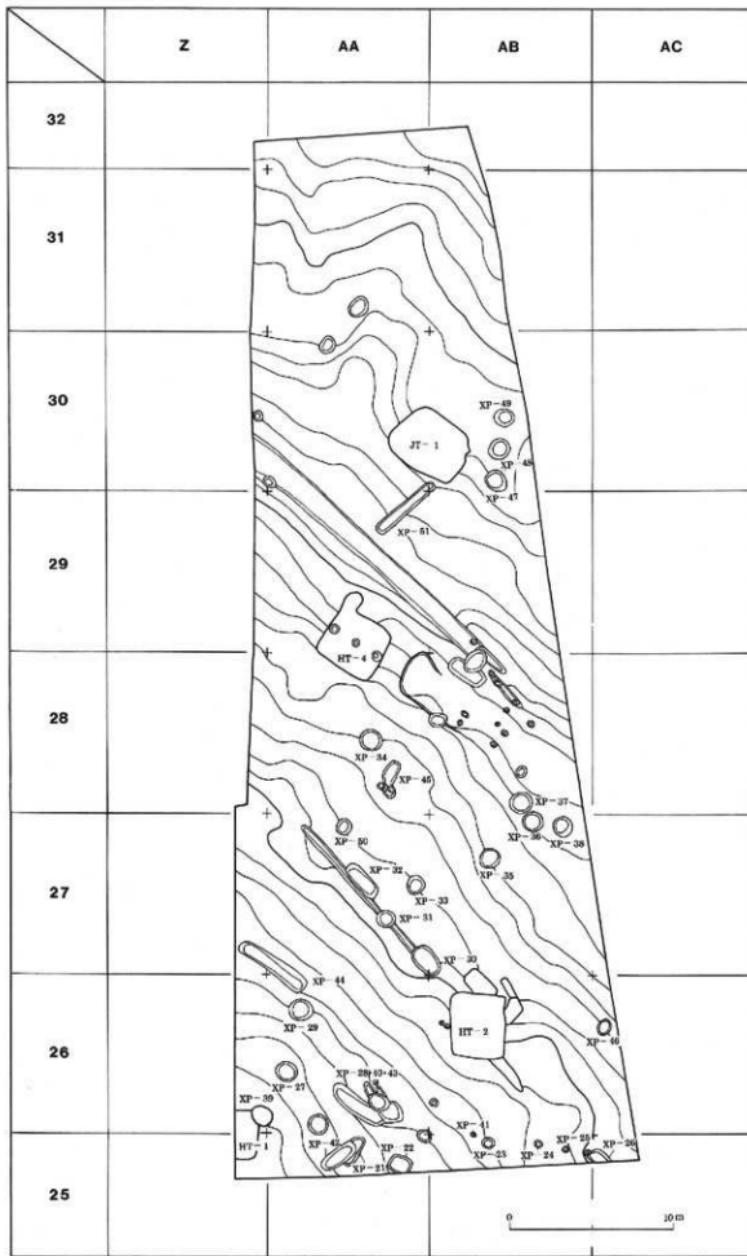
第1表 周辺遺跡一覧



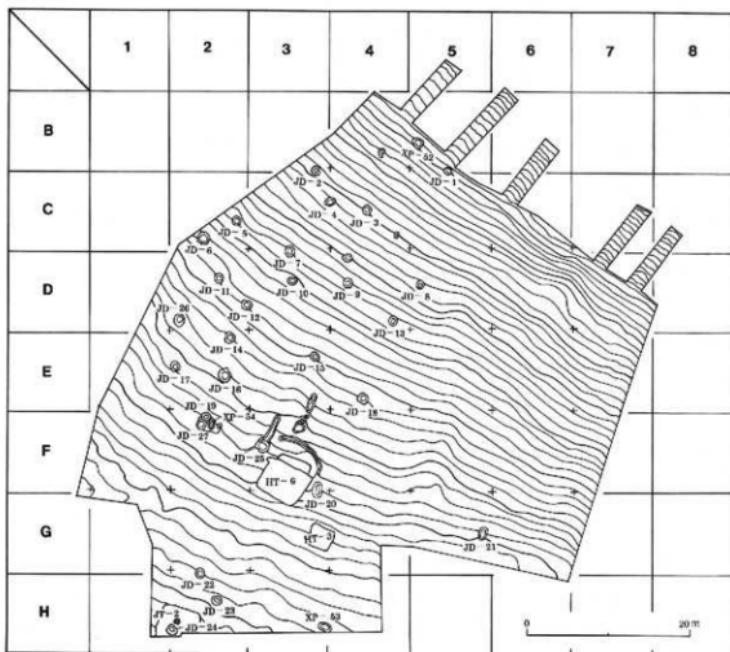
第2図 調査区位置図



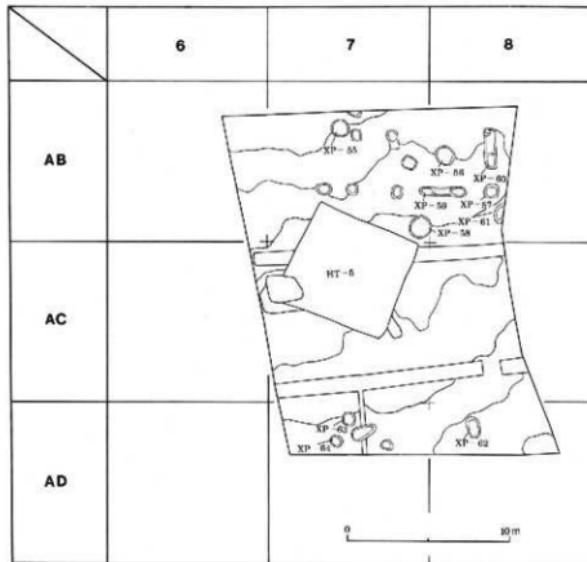
第3図 第1調査区



第4図 第2調査区



第5図 第3調査区



第6図 第4調査区

# はしがき

## 遺跡環境

原平遺跡は、笛子川左岸で南側に緩傾斜する中位段丘上に所在する（標高は約410～460m）。北側は原上山（標高521.4m）へと続き、西側、東側ともに沢が流れる。現在は工場や中央自動車道、住宅などが建設されその面影はないが、もともとは耕作地で野菜や果樹などが栽培されていた。

本遺跡は縄文時代と平安時代を中心とする集落遺跡で、市内でも大月遺跡や宮谷（白山・東平・金山）遺跡などと並ぶ規模の大きいものである。昭和58（1983）年～昭和60（1985）年の大月市教育委員会による調査では、縄文時代早期末の住居が56件出土し、この時期の集落としては全国的にも規模の大きいものとして注目された。

## 調査に至る経過

本遺跡は、古くから耕作土中に土器や石器などの遺物が確認されるなどしてその存在を知られていた。分布調査でも様々な遺物が確認され、段丘上全体が埋蔵文化財包蔵地として台帳に記載された。

発掘調査としては、昭和47（1970）年、都留文科大学学生によるもの（第1次調査）。昭和48（1973）年、中央自動車道建設に伴う山梨県教育委員会によるもの（第2次調査）。昭和58（1983）年～昭和59（1984）年、大月市教育委員会による工業団地建設計画に伴う試掘および本調査（第3次調査）。昭和60（1985）年、前記計画に伴う追加調査（第4次調査）があり、今回の調査は第5次調査となる。また第5次調査終了後、本報告書刊行までに、山梨県教育委員会により中央自動車道拡幅に伴う調査が平成10（1998）年に行われ、報告書中でその調査を原平遺跡における第3次調査としている。しかし、これらの経過から本報告書中ではその調査を第6次調査とする。

第5次調査は、日本電気株式会社大月工場（現 山梨日本電気株式会社大月工場）の2期棟建設による駐車場増設に伴うもので、簡易舗装の駐車場ではあるが表土が薄く埋蔵文化財に影響が及ぶことから、工場周辺の4箇所で調査を行った。

## 調査に関する事前協議

事前協議として4箇所のうちの1箇所（第2調査区）について、原団者より工場業務の都合上、調査終了日を早期に限定したい旨の申し入れがあった。そのため遺跡確認面を把握した時点で建設担当者を含め協議を行った。その結果、調査期間と設計等を考慮し、平安時代の遺跡確認面を下限として調査を進めた。これまでの調査からも下層に縄文時代の遺跡が存在することはほぼ間違いないと予測できたが、建設の影響を受けて保護されることと、原団者に出来る限り負担をかけず協力を求めるという立場や時間的制約から、調査範囲を限定した。また、隣接地では耕作や果樹栽培を続けており、調査区域との境界にも幅を持たせるなど注意を払った。

上記のような制約により、今後、当区域（第2調査区部分）において建造物建設などの土木工事を行う時は、未調査である下層部分の発掘調査を事前に実施する必要がある。

## 遺跡と遺物

### 縄文時代

#### 竪穴住居跡

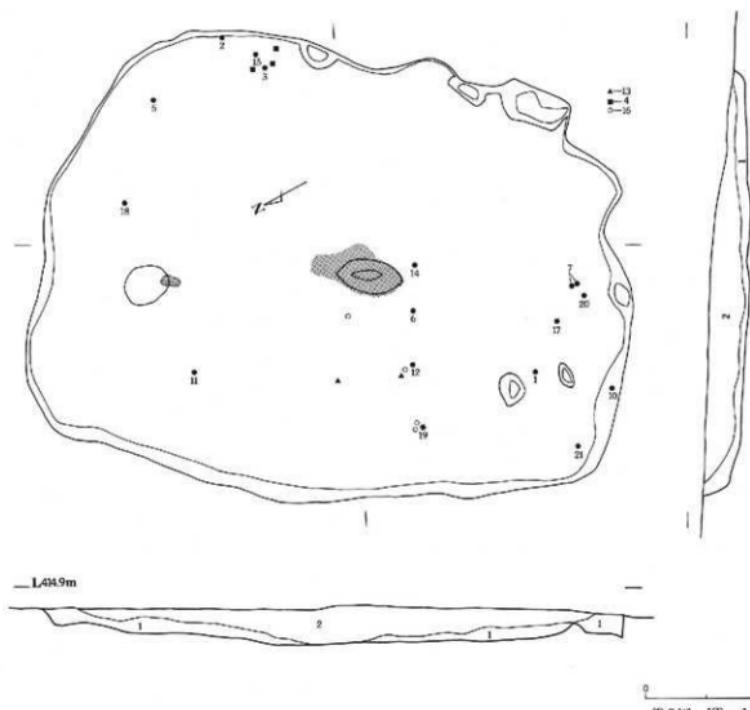
JT-1 (第2・4・7~9図、図版2・9)

##### 遺跡

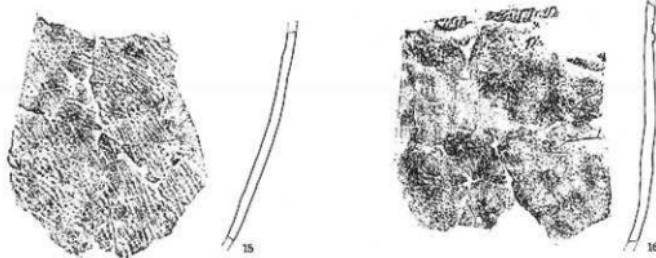
本跡は第2調査区東のAA-30区、AB-30区に位置する。規模は南北が4.8m、東西は3.5mの隅丸方形。上部は耕作による搅乱を受けている。遺存部分で床面まで約20~30cm。炉は住居中央やや北寄りにあるが遺存状態は悪い。柱穴は不明である。壁溝は遺存する北・東壁に確認できた。

##### 遺物

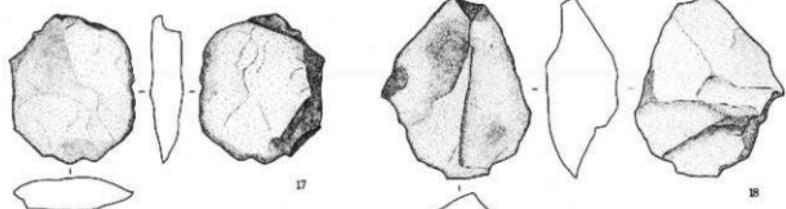
1~16は土器で、17~21が石器。1~4は深鉢口縁、5~15は体部、16は口縁から体部にかけてである。17~21は打製石斧。



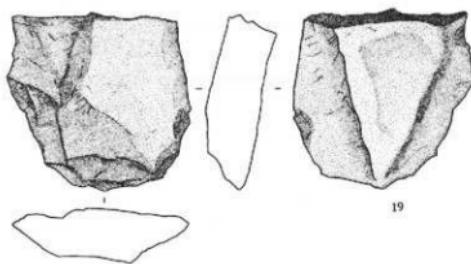
第7図 JT-1(1)



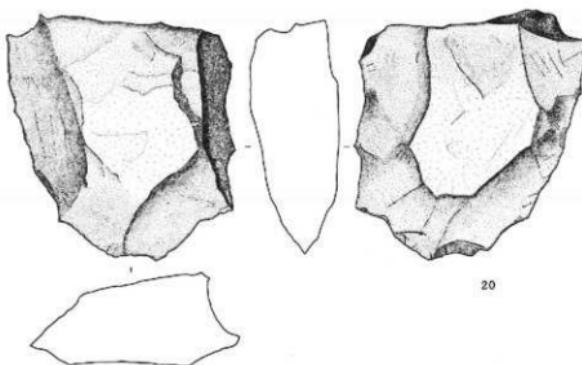
0 10cm



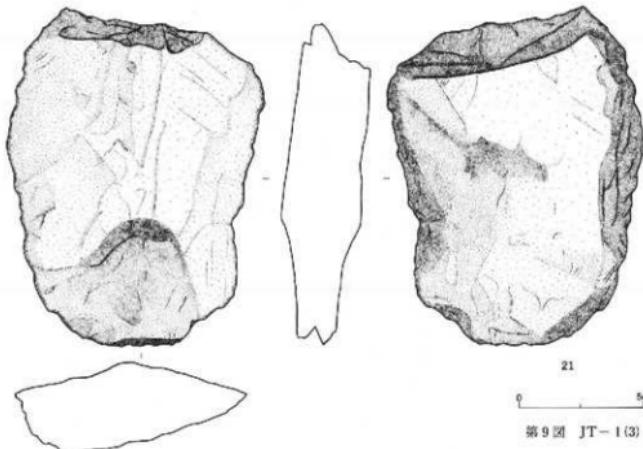
0 5cm  
第8层 JT-1(2)



19



20



21

0 5cm

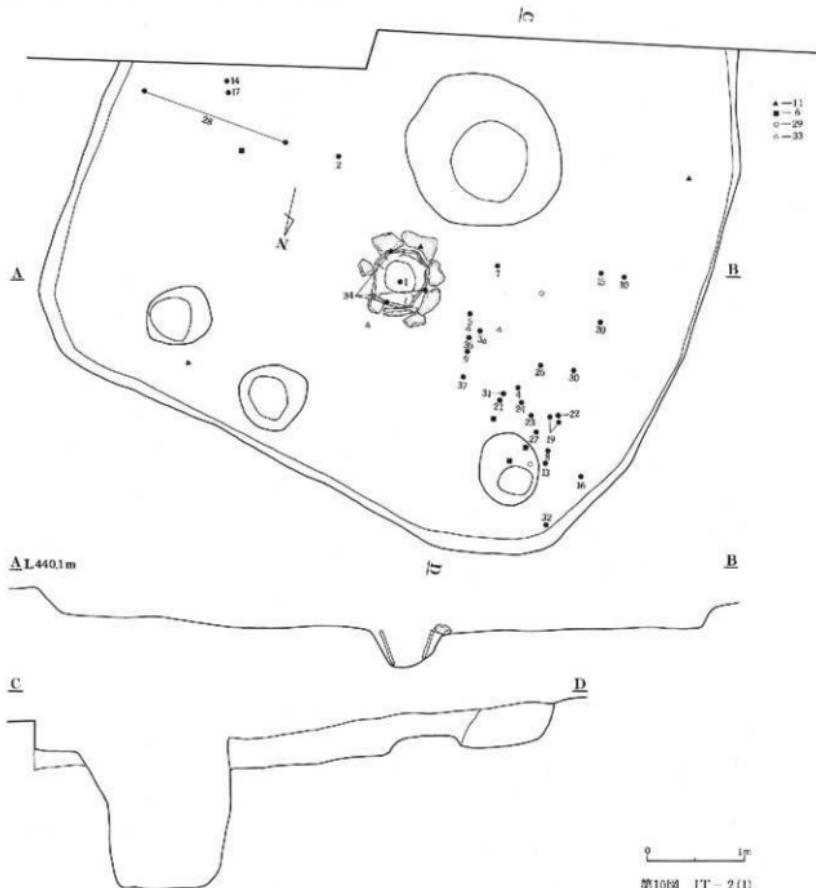
第9図 JT-1(3)

## 遺跡

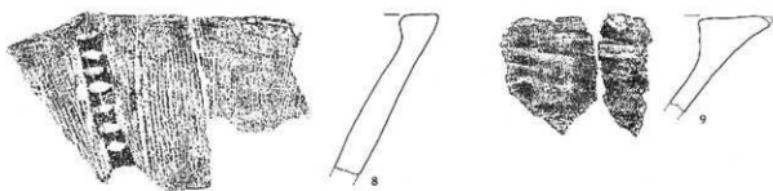
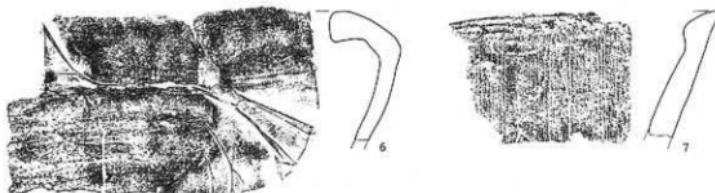
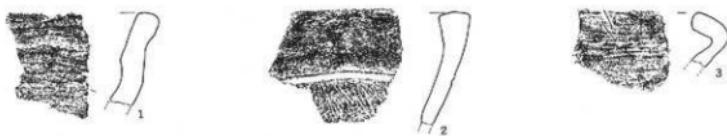
本跡は第3調査区南西のH-1区、H-2区に位置する。規模は南壁部分が調査区域外ではあるが東西、南北とも約5.2mの隅丸方形と思われる。深さは床面まで約30cm。住居内南には落とし穴(JD-24)が切り合っている。炉は住居のはば中央にあり、半裁した深鉢を炉体とした石囲い炉である。柱穴は住居北西隅と北東隅付近に確認できた。北西隅のものは口径が約50cm、底径が約20cm。深さは約80cmである。北東隅のものは口径が50cmで、底径が30cm。深さは約80cmである。また北東隅柱穴西に隣接して、口径約50cm、底径約30cm、深さ約80cmの穴が確認できた。性格は不明である。

## 遺物

1~36は土器で、37が打製石器。1は鉢口縁、2~12は深鉢口縁、13~31、34は体部、32、33は底部で、35は口縁から体部にかけてである。36は土偶。

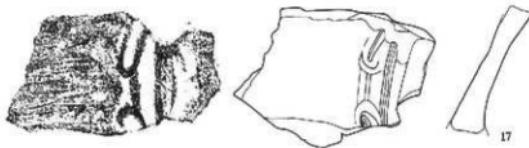
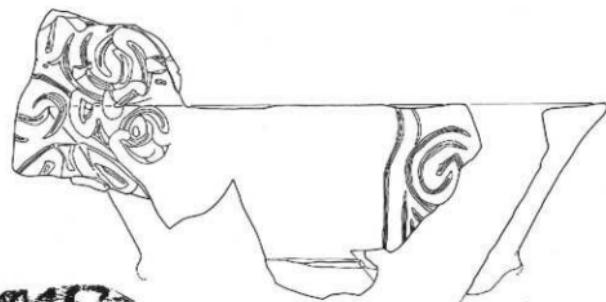


第10図 JT-2(1)

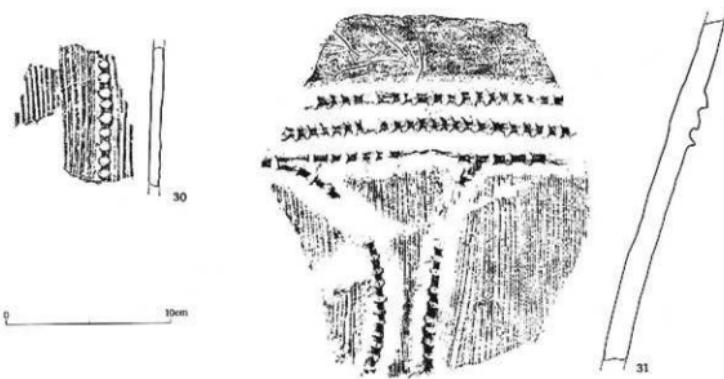
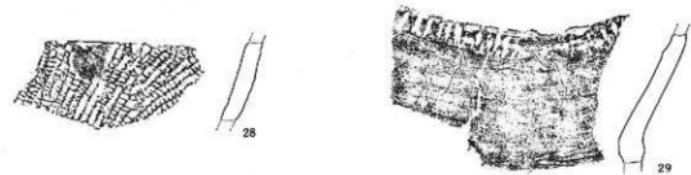
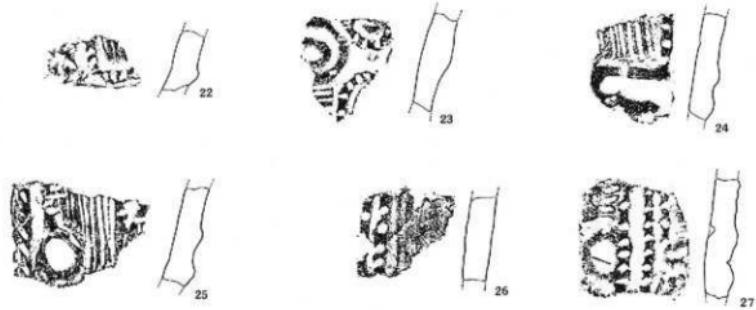


0 10cm

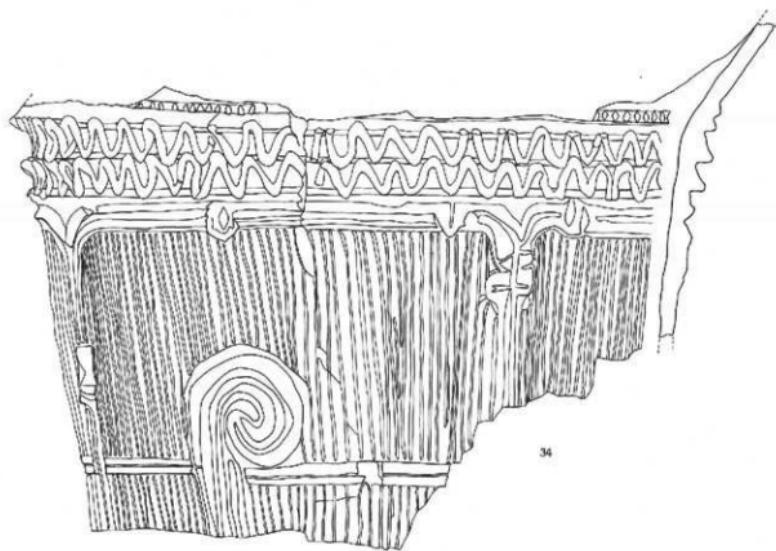
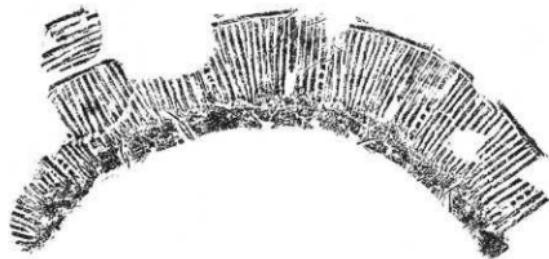
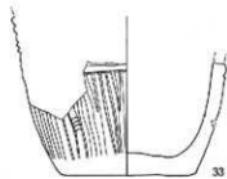
第1180 JT-2(2)



0 10cm  
第12图 JT-2(3)

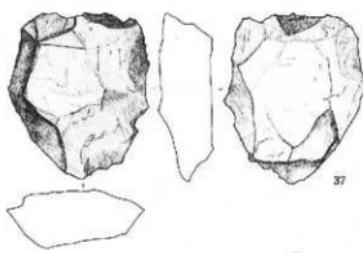
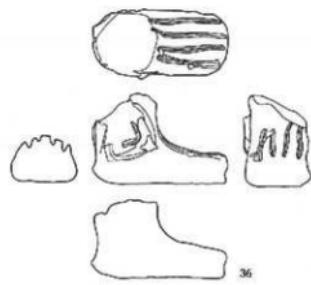
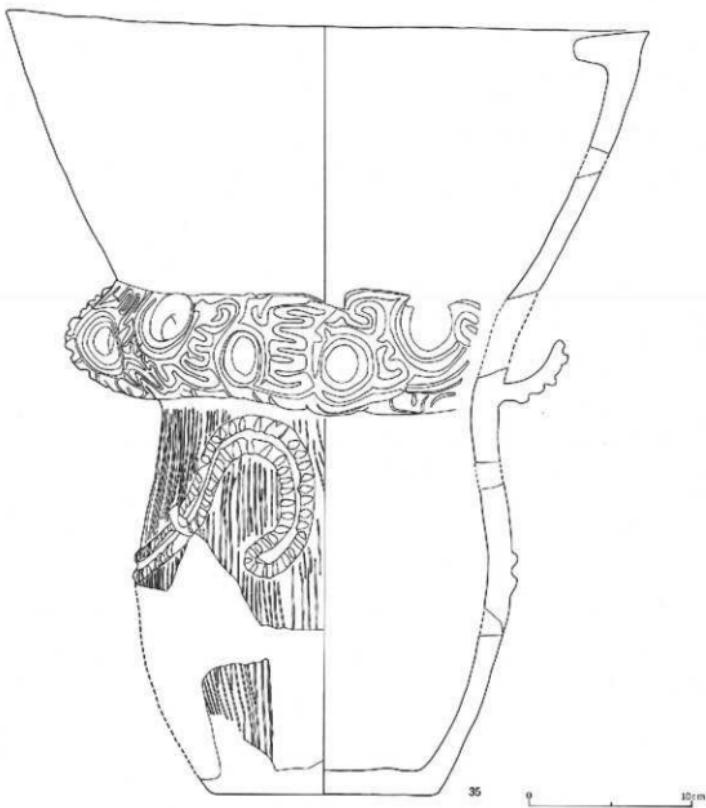


第13図 JT-2(4)



0 10mm

第14図 JT-2(5)



第15図 JT-2(6)

## 土 坑

JD- 1 (第 2・5・16図、図版 2)

### 遺跡

本跡は第3調査区北東のB- 5区、C- 5区に位置する。直径が開口部で1m、底面で0.5mの円形。深さは0.95m。底面に直径約5cm、深さ5cmほどの小穴が2つある。

JD- 2 (第 2・5・16図、図版 2)

### 遺跡

本跡は第3調査区北のB- 3区、C- 3区に位置する。直径が開口部で1.4m、底面で0.5mの円形。深さは1m。底面に直径5cm、深さ10cmほどの小穴が5つある。

JD- 3 (第 2・5・16・19図、図版 2・12)

### 遺跡

本跡は第3調査区北東のC- 4区に位置する。直径が開口部で1m、底面で0.65mの円形。深さは1.1m。底面に直径5cm、深さ5cmほどの小穴が6つある。

### 遺物

遺物は1の石器のみである。

JD- 4 (第 2・5・16図、図版 2)

### 遺跡

本跡は第3調査区北のC- 3区、C- 4区に位置する。北側に擾乱を受けている。直径が開口部で約0.95m、底面で0.7mの円形。深さは0.95m。底面に直径5cm、深さ40cmほどの小穴が6つある。

JD- 5 (第 2・5・16図、図版 2)

### 遺跡

本跡は第3調査区北西のC- 2区に位置する。直径が開口部で約0.93m、底面で0.45mの円形。深さは1.05m。底面に直径5cm、深さ15cmほどの小穴が4つある。

JD- 6 (第 2・5・16・20図、図版 2・12)

### 遺跡

本跡は第3調査区北西のC- 2区に位置する。開口部は楕円形で、長軸が1.55m、短軸が1.4m。底面はほぼ円形で直径が0.8m。深さは1.5m。底面に直径5cm、深さ45cmほどの小穴が7つある。

### 遺物

遺物は2の縄文土器深鉢片1点で、半裁竹管文が施されている。

JD- 7 (第 2・5・16図、図版 2)

### 遺跡

本跡は第3調査区北西のC- 3区、D- 3区に位置する。開口部は楕円形で、長軸が1.35m、短軸が1.15m。底面はほぼ円形で直径が0.8m。深さは1.4m。底面に直径10cm、深さ20cmほどの小穴が5つある。

JD-8 (第2・5・16図、図版3)

遺跡

本跡は第3調査区北東のD-5区に位置する。直径が開口部で約0.93m、底面で0.65mの円形。深さは1.1m。底面に直径5cm、深さ40cmほどの小穴が5つある。

JD-9 (第2・5・16図、図版2)

遺跡

本跡は第3調査区北西のD-4区に位置する。直径が開口部で約1.1m、底面で0.7mの円形。深さは1.1m。底面に直径5cm、深さ15cmほどの小穴が7つある。

JD-10 (第2・5・17図、図版2)

遺跡

本跡は第3調査区北西のD-3区に位置する。直径が開口部で約0.95m、底面で0.55mの円形。深さは0.8m。底面に直径10cm、深さ40cmほどの小穴が4つある。

JD-11 (第2・5・17図、図版2)

遺跡

本跡は第3調査区西のD-2区に位置する。開口部は楕円形で、長軸が1.2m、短軸が0.95m。底面も楕円形で、長軸が0.5m、短軸が0.36m。深さは0.9m。底面に直径5cm、深さ15cmほどの小穴が8つある。

JD-12 (第2・5・17図、図版2)

遺跡

本跡は第3調査区西のD-2区、D-3区に位置する。直径が開口部で約1.2m、底面で0.7mの円形。深さは1.3m。底面に直径5cm、深さ20cmほどの小穴が9つある。

JD-13 (第2・5・17図、図版2)

遺跡

本跡は第3調査区中央のD-4区に位置する。直径が開口部で1m、底面で0.7mの円形。深さは1.1m。底面に直径12cm、深さ25cmほどの小穴が3つある。

JD-14 (第2・5・17図、図版2)

遺跡

本跡は第3調査区西のE-2区に位置する。直径が開口部で1.25m、底面で0.75mの円形。深さは1.17m。底面に直径6cm、深さ20cmほどの小穴が6つある。

JD-15 (第2・5・17図、図版2)

遺跡

本跡は第3調査区西のE-3区に位置する。直径が開口部で1.05m、底面で0.8mの円形。深さは1.25m。底面に直径10cm、深さ35cmほどの小穴が6つある。

JD-16 (第2・5・17図、図版2)

遺跡

本跡は第3調査区南西のE-2区に位置する。直径が開口部で1.6m、底面で0.7mの円形。深さは1.35m。底面に直径4cm、深さ40cmほどの小穴が9つある。

JD-17 (第2・5・17図、図版3)

遺跡

本跡は第3調査区西のE-2区に位置する。開口部は橢円形で、長軸が1.2m、短軸が1m。底面はほぼ円形で直径が0.5m。深さは1.15m。底面に直径4cm、深さ10cmほどの小穴が6つある。

JD-18 (第2・5・18図、図版3)

遺跡

本跡は第3調査区中央のE-4区に位置する。直径が開口部で1.2m、底面で0.7mの円形。深さは1.2m。底面に直径8cm、深さ50cmほどの小穴が6つある。

JD-19 (第2・5・40図、図版3)

遺跡

本跡は第3調査区南西のF-2区に位置する。直径が開口部で0.95m、底面で0.6mの円形。深さは1.2m。底面に直径5cm、深さ10cmほどの小穴が7つある。

JD-20 (第2・5・18・20図、図版3・12)

遺跡

本跡は第3調査区南西のF-3区、G-3区に位置する。開口部は橢円形で、長軸が2.05m、短軸が1.25m。底面は隅丸の長方形で、長軸が1.5m、短軸が0.7m。深さは1.25m。

遺物

遺物は、3、4の縄文土器深鉢片2点と5の打製石器1点である。3、4は貼紐による文様。

JD-21 (第2・5・18図)

遺跡

本跡は第3調査区南東のG-5区に位置する。開口部は隅丸の長方形で、長軸が1.5m、短軸が1m。底面も隅丸の長方形で、長軸が1.2m、短軸が0.3m。深さは0.95m。底面に直径5cm、深さ25cmほどの小穴が1つある。

JD-22 (第2・5・18・20図、図版3・12)

遺跡

本跡は第3調査区南西のH-2区に位置する。直径が開口部で1.15m、底面で0.6mの円形。深さは1.2m。底面に直径5cm、深さ30cmほどの小穴が5つある。

遺物

遺物は6~9の縄文土器片4点である。6は沈線による弧文、7は縄文、9は口縁に刻みを施したもの。

JD-23 (第2・5・18・20図、図版3・12)

遺跡

本跡は第3調査区南西のH-2区に位置する。直径が開口部で1.15m、底面で0.7mの円形。深さは1.1m。底面に直径4cm、深さ25cmほどの小穴が6つある。

遺物

遺物は10、11の縄文土器片2点である。11は深鉢口縁。

JD-24 (第2・5・18・20図、図版3・12)

遺跡

本跡は第3調査区南西のH-2区に位置する。直径が開口部で1.4m、底面で0.7mの円形。深さは1.2m。底面に直径5cm、深さ10cmほどの小穴が6つある。

遺物

遺物は12の縄文土器深鉢口縁片1点で、縦列沈線を施してある。

JD-25 (第2・5・19・20図、図版3・12)

遺跡

本跡は第3調査区南西のF-3区に位置する。周間に搅乱を受けているため遺存する部分の直径が開口部で1.4m、底面が0.7mの円形。深さは1.26m。底面に直径10cm、深さ24cmほどの小穴が7つある。

遺物

遺物は13の縄文土器片1点と14の黒曜石1点である。13は縄文が施されている。

JD-26 (第2・5・19図、図版3)

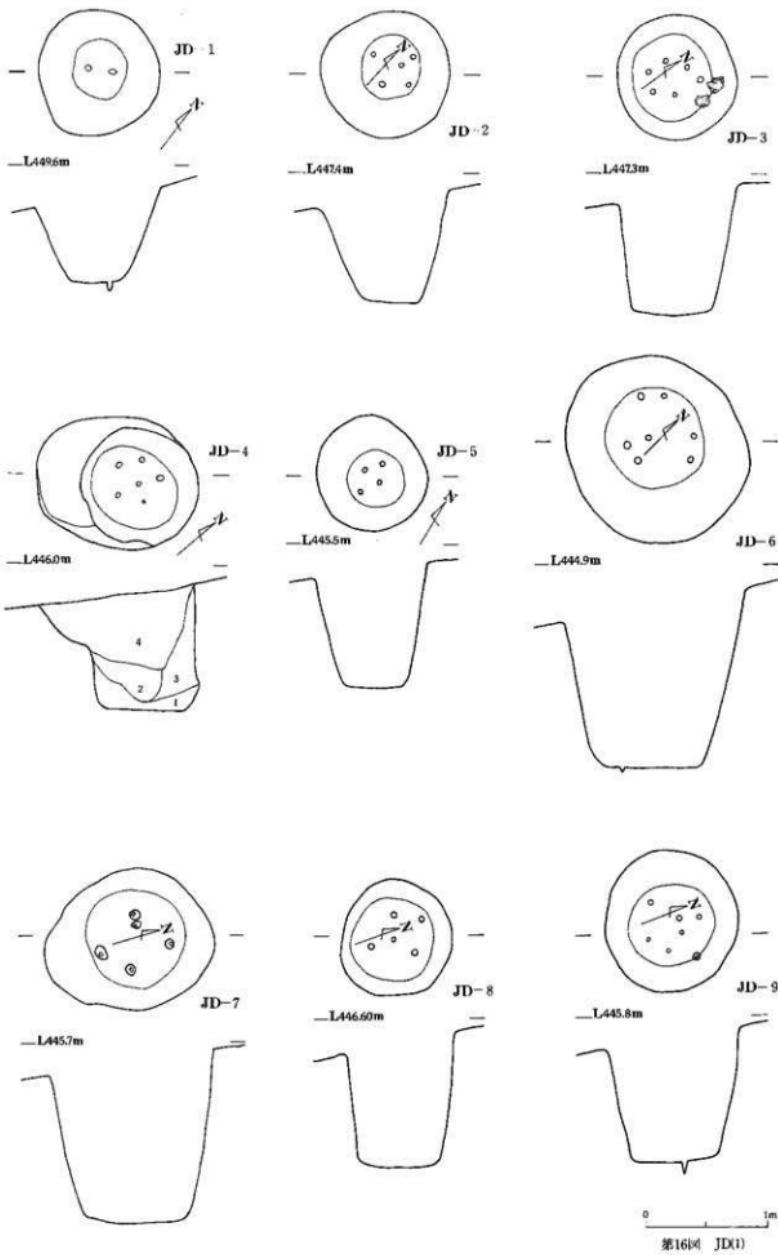
遺跡

本跡は第3調査区西のD-2区に位置する。直径が開口部で約1.25m、底面で0.7mの円形。深さは1.55m。底面に直径4cm、深さ40cmほどの小穴が8つある。

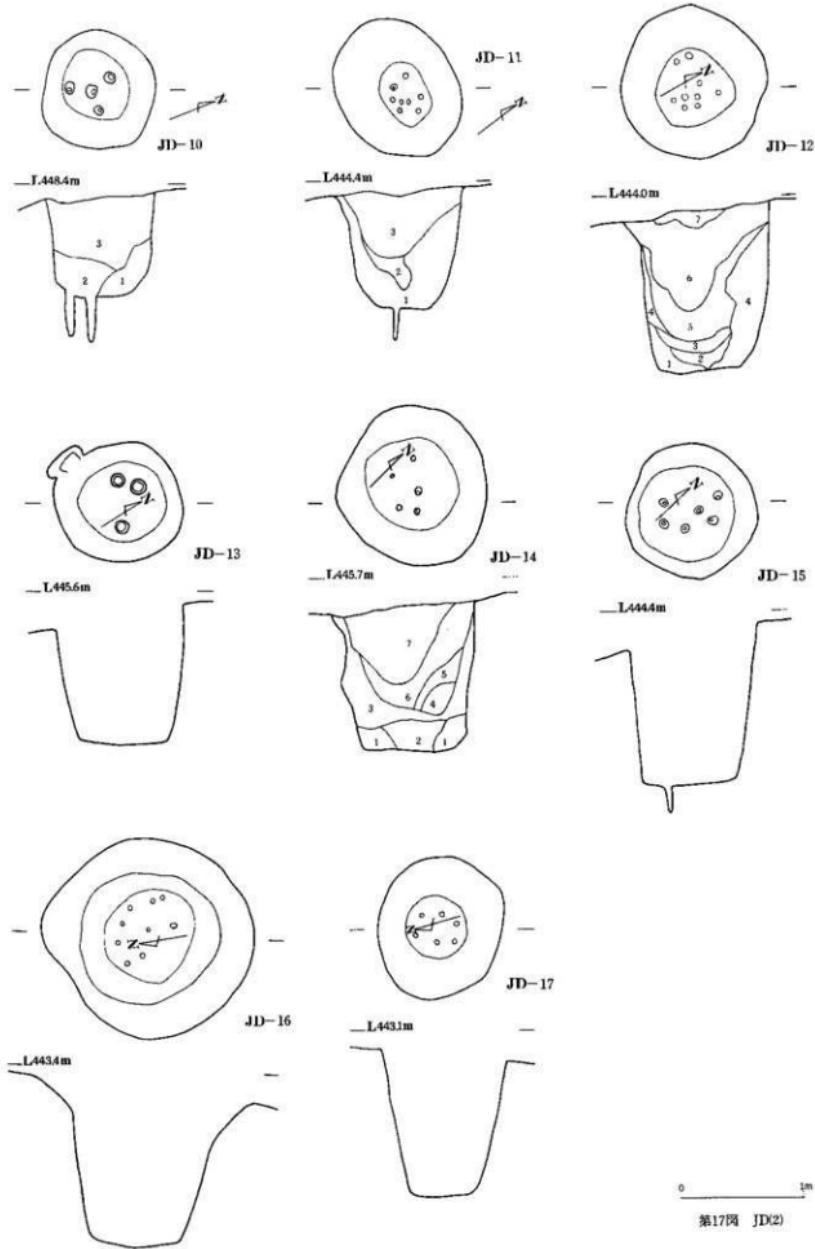
JD-27 (第2・5・40図、図版3)

遺跡

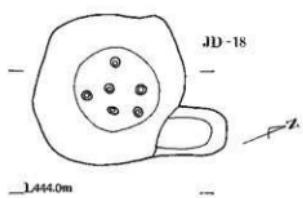
本跡は第3調査区南西のF-2区に位置する。直径が開口部で約1m、底面で0.55mの円形。深さは1.15m。底面に直径4cm、深さ10cmほどの小穴が6つある。



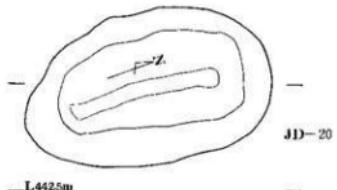
第16回 JD(1)



第17図 JD(2)

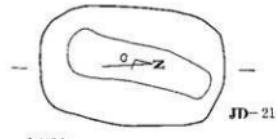
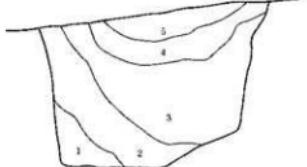
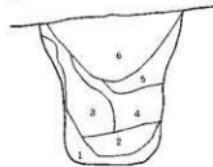


— 1,444.0m —

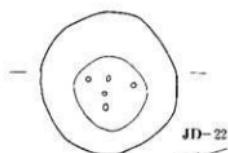


JD-20

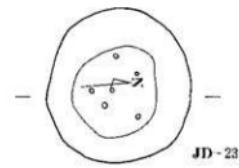
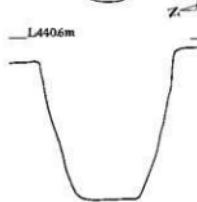
— L4425m —



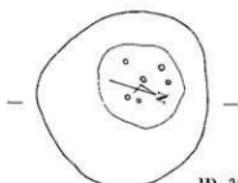
— 1,442.4m —



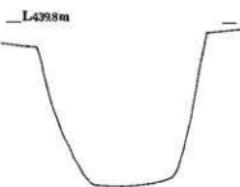
JD-22



— L4404m —

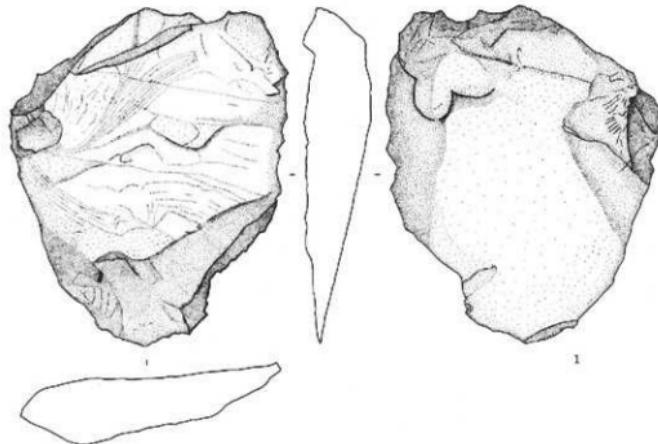
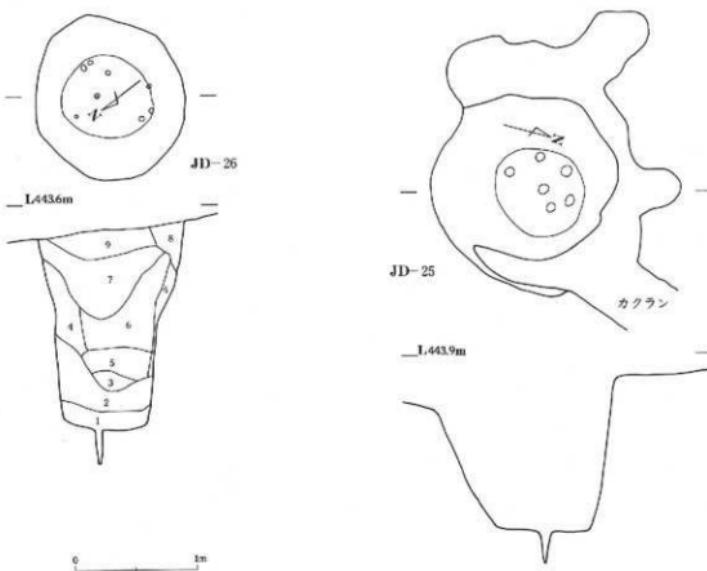


JD-24



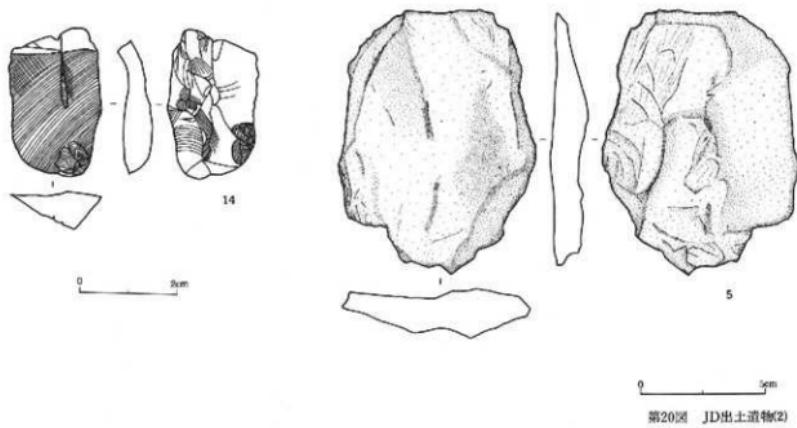
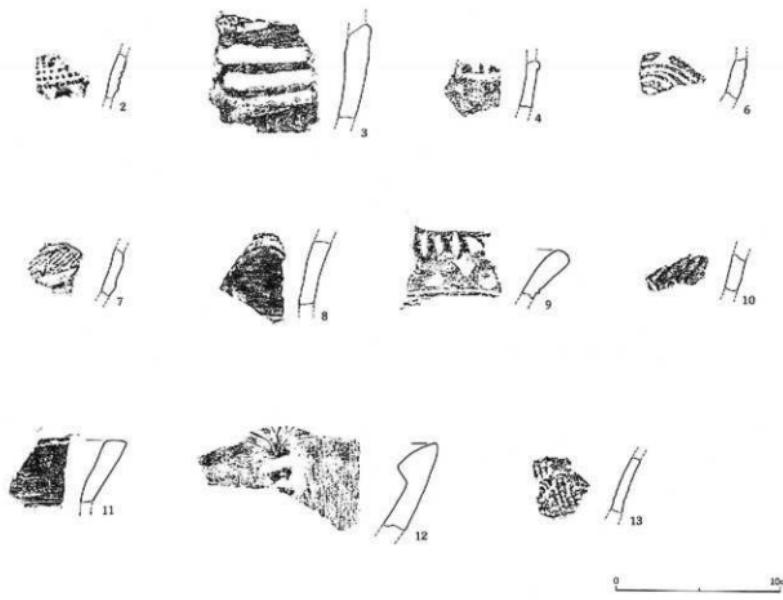
0 1m

第18回 JD(3)



0 1cm

第19図 JD4・JD出土遺物(1)



第20圖 JD出土遺物(2)

# 歴史時代

## 豎穴住居跡

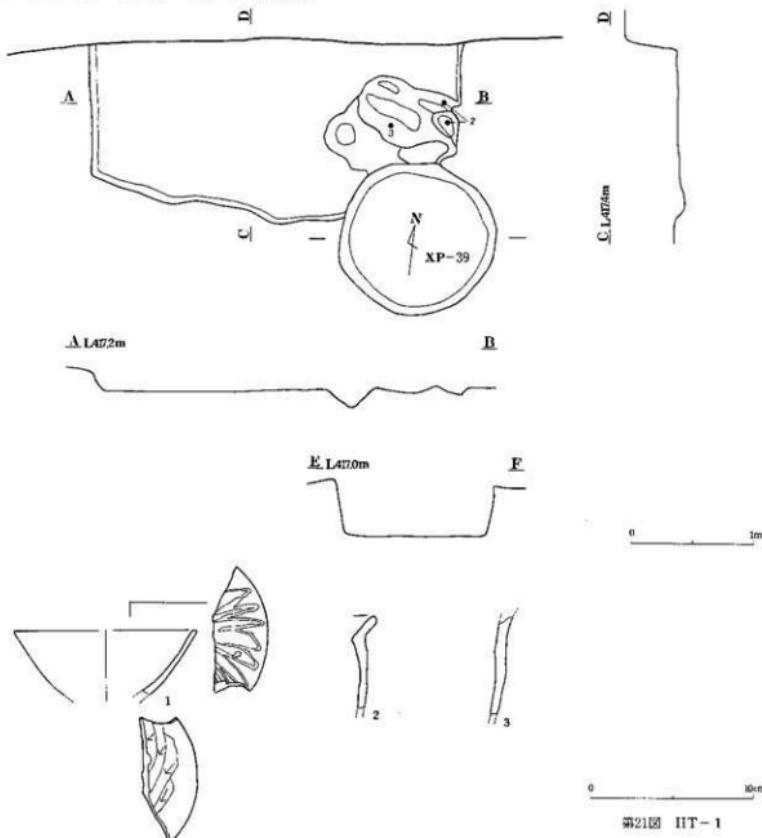
HT-1 (第2・4・21図、図版13)

### 遺跡

本跡は第2調査区西、調査区域北辺に接するZ-25区、Z-26区に位置する。北部は調査区域外にかかる。また、東南隅でXP-39と切り合っていて搅乱も受けている。規模は東西が3.5m、南北は調査区域外のため不明。壁高は約0.4m。カマドは東壁南寄りにあるが遺存状態は悪い。

### 遺物

1～3は土器器で、1が壊、2、3は甕である。1は甲斐型壺で口径11.4cm。体部内面に暗文、体部外面下半に手持ちヘラ削りが施されている。口縁部は玉縁仕上げ。2は甲斐型小甕で、外面に縦ハケ目、内面に横なで仕上げ。口縁は薄口縁。3は甕体部。



第21図 HT-1

HT-2 (第2・4・22~25図、図版4・13)

遺跡

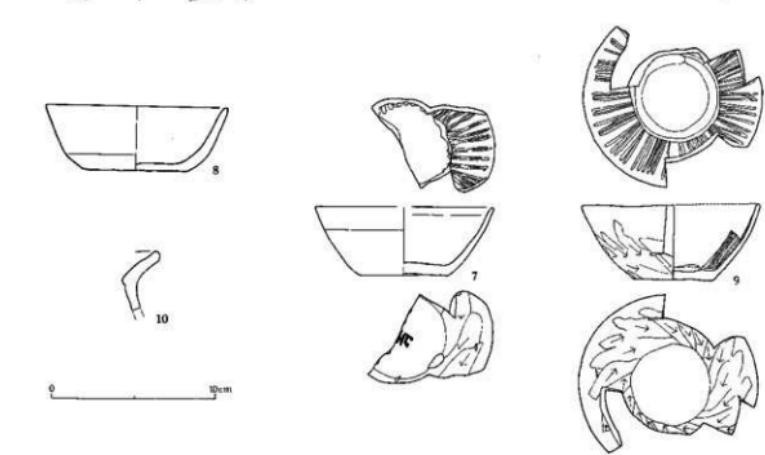
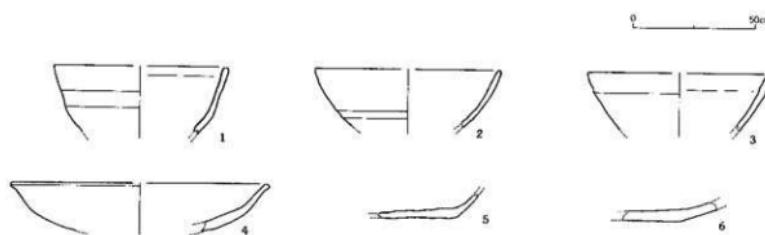
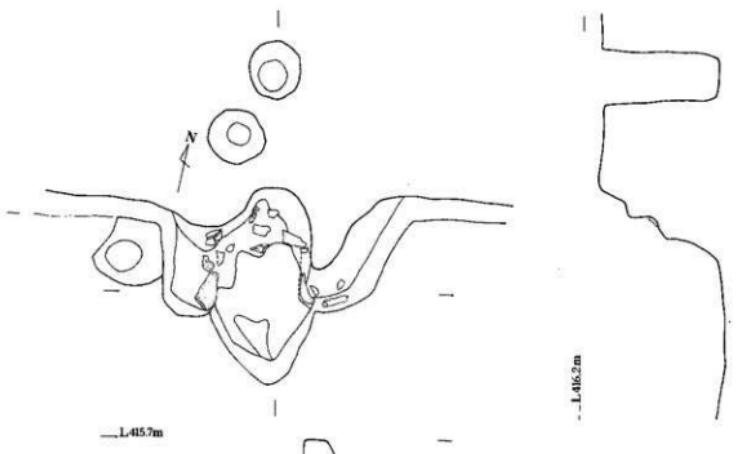
本跡は第2調査区西のAB-26区、AB-27区に位置する。南北は3.9m、東西は5.6m。壁高は約0.5m。カマドは北壁ほぼ中央にあり、煙道部などの遺存がよい。住居内からは多量の炭化材が床直上より出土していることから、火災家屋と思われる。

遺物

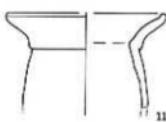
1~18はともに土器器で、1~4、7~9が壺、5、6は皿、10~18が甕である。19は陶器で、20が砾石である。1、2は甲斐型壺で体部内面に暗文、体部外面下半に手持ちヘラ削りが施されている。3は壺で体部外面に手持ちヘラ削りが施されている。4は甲斐型皿で体部外面下半に回転ヘラ削り。5は甲斐型壺で底部全面にヘラ削りが施されている。6も甲斐型皿でみこみ部に暗文、底部外面、体部外面下半に回転ヘラ削りが施されている。7~9は甲斐型壺で体部内面に暗文、体部外面下半に手持ちヘラ削りが施されている。底部は糸引き後ヘラ削り仕上げ。7の底部に墨書き「□」。10~12、14、15、18は甲斐型大甕で外面に縦ハケ目、内面に横なで仕上げ。口縁は薄口縁。18は底部に木葉痕。13は甲斐型小甕で外面に縦ハケ目、内面に横なで仕上げ。口縁は薄口縁。16、17は甲斐型甕で底部に木葉痕。



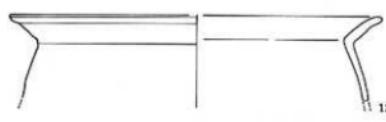
第22図 HT-2(1)



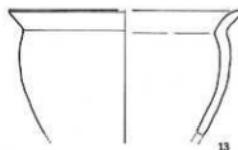
第23圖 HT - 2 (2)



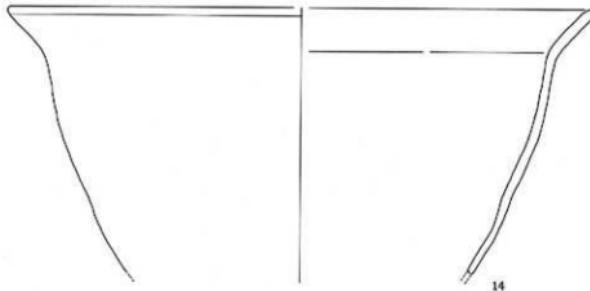
11



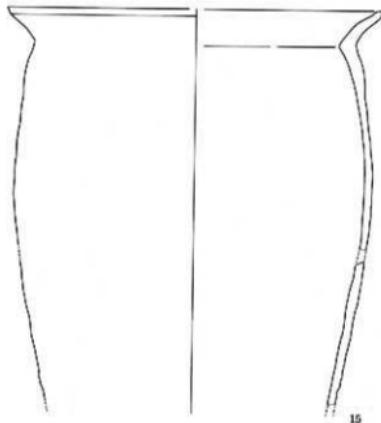
12



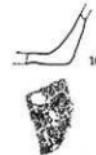
13



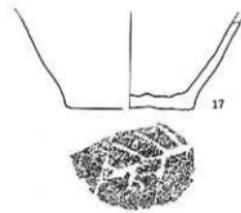
14



15



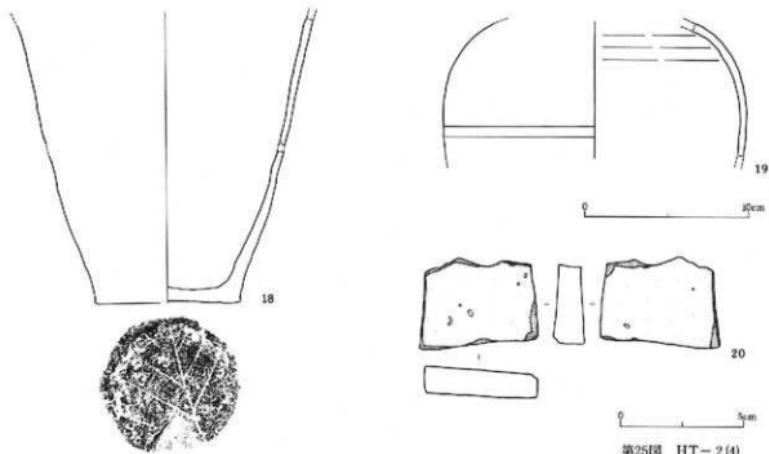
16



17

0 1 2 cm

第24图 II T - 2 (3)



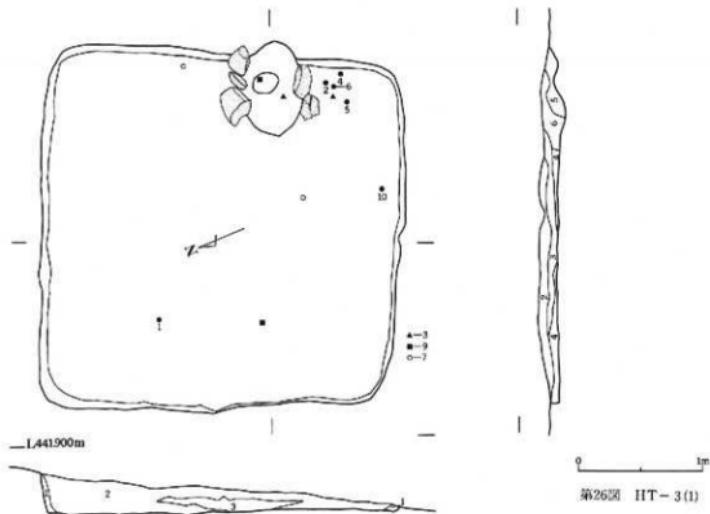
HT-3 (第2・5・26・27図、図版4・14)

#### 遺跡

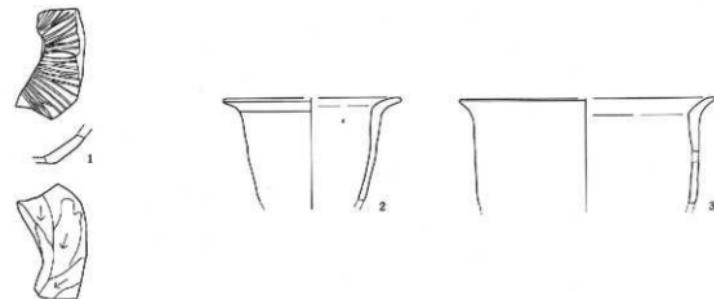
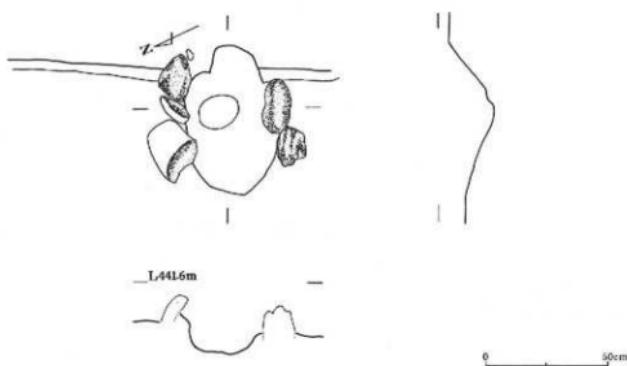
本跡は第3調査区南のG-3区、G-4区に位置する。南北は3m、東西は3mで規模は小さい。壁高は約0.34m。カマドは東壁ほぼ中央にある。

#### 遺物

1~9はともに土師器で、1が壺、2~9が甕で、10は陶器である。1は甲斐型壺で体部内面に暗文、体部外面下半に手持ちヘラ削りが施されている。2、3は甲斐型小甕で4~6は甲斐型大甕である。どちらも外面が縦ハケ目、内面が横な仕上げとなっている。口縁は薄口縁である。7~9も甲斐型甕で、7、8は体部。9は底部で木葉痕あり。10はすり鉢。



第26図 HT-3 (1)



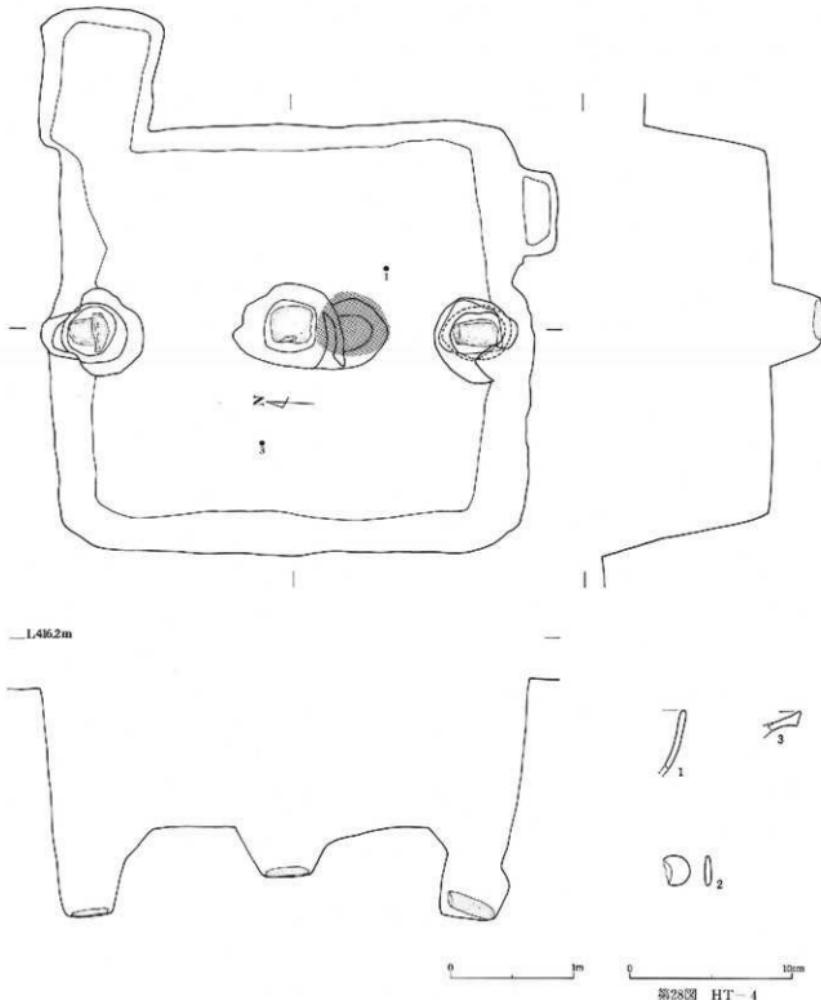
第27圖 HIT-3(2)

## 遺跡

本跡は第2調査区中央のAA-28区、AA-29区に位置する。南北は3.9m、東西は3.5m。壁高は約0.65m。カマドではなく、建物内ほぼ中央の柱穴付近に、炉のような火床を確認した。柱穴は建物中央と南北方向のそれぞれ壁際に3箇所確認した。柱穴内部には、礎石と思われる平らな川原石が埋められていた。

## 遺物

1、2は土師器で、3は須恵器。1は壺で体部外面下半に手持ちヘラ削り。2はおはじき状の土製品。3は壺口縁。



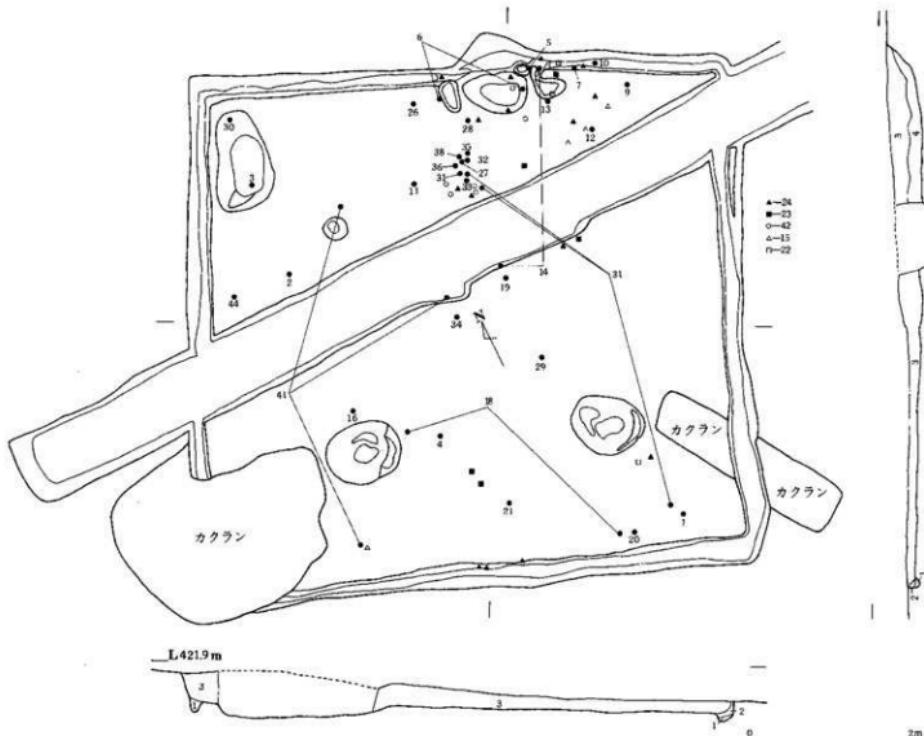
第28図 HT-4

## 遺跡

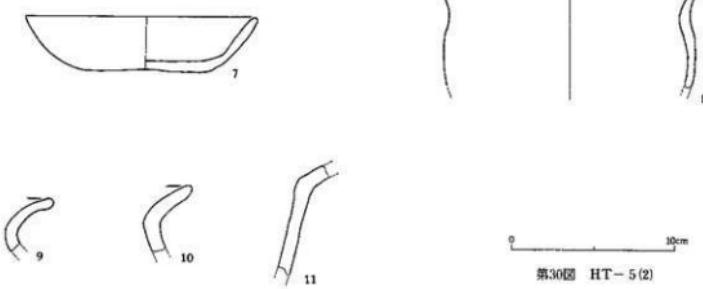
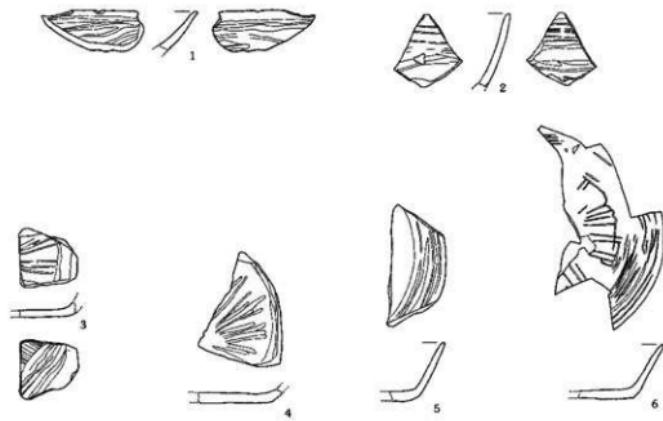
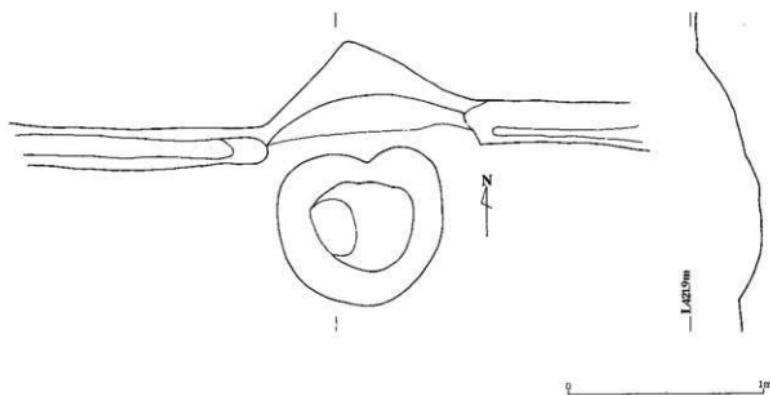
本跡は第4調査区のAB-7区、AC-6区、AC-7区に位置する。南北は6.9m、東西は6.9m。壁高は約0.58m。南西隅と東壁北よりから西壁南よりにかけて搅乱を受けている。カマドは北壁にはば中央にあり、火床が残るのみである。柱穴は搅乱を受けた北東部のもの以外、3箇所確認した。壁溝は全ての壁際に作られている。北西隅の壁際に、縦1.1m、横0.7m、深さ0.25mほどの掘り込みを確認した。

## 遺物

1~24は土師器で、1~7が壺、8~24が甕である。25~42は須恵器の壺である。44は陶器の壺。1、2は内外面とも横位ヘラ磨きが施されている。3は内面みこみ部に暗文、底部にヘラ磨きが施されている。4は内面みこみ部に暗文が施され、底部はヘラ削り仕上げである。5は甲斐型壺で体部内面は横位ヘラ磨き、底部外面にヘラ削りが施されている。6は甲斐型壺で体部内面に横位ヘラ磨き、みこみ部に暗文、底部外面にヘラ削りが施されている。7は甲斐型壺で底部外面ヘラ削り仕上げ。8は小甕で口縁は薄口縁。9、10、12~15は口縁。11、44は体部で、外面にヘラ書き。16~18は体部。19~22は底部で、19には木葉痕あり。23は口縁部から体部。24は底部木葉痕あり。25、26は口縁。27~42は体部で、外面に平行叩き目。なお、25~42は同一個体で、26、27、41が接合した。



第29図 HT-5(1)



第30圖 HT-5 (2)



12



13



14



15



16



17



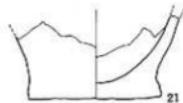
18



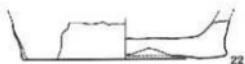
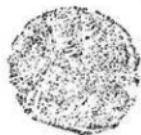
19



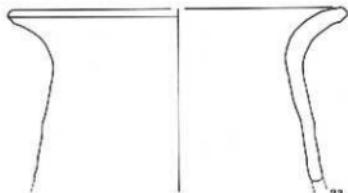
20



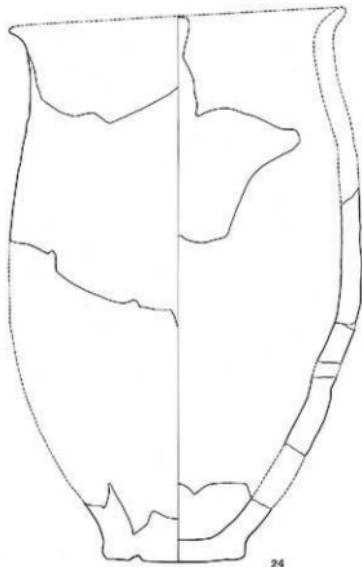
21



22



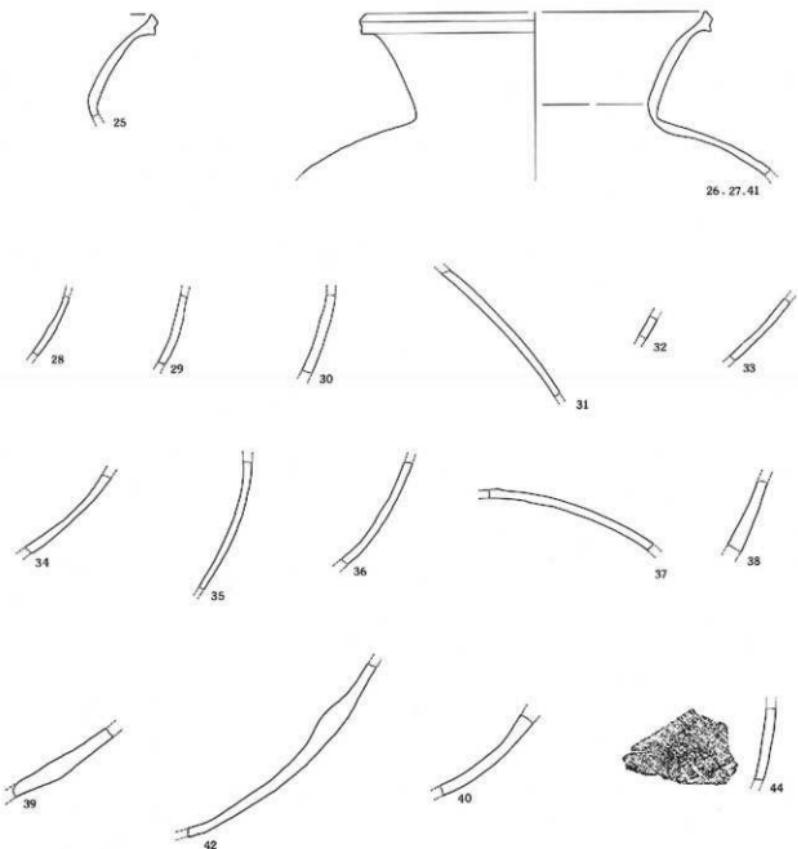
23



24

0 10cm

第31図 HT-5(3)



0 10cm

第32図 HT-5(4)

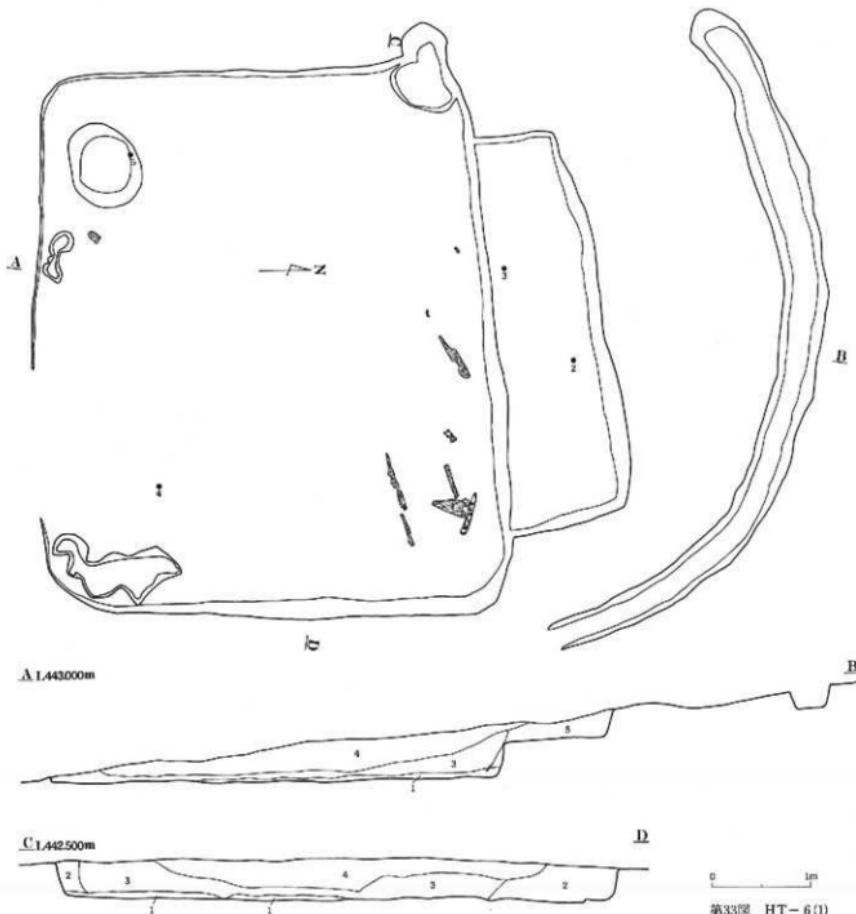
HT-6 (第2・5・33・34図、図版4・15)

遺跡

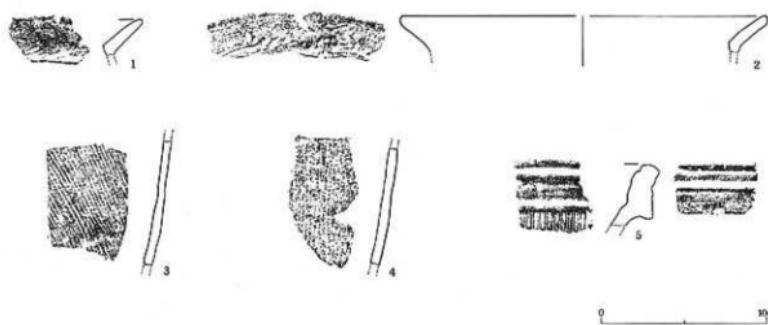
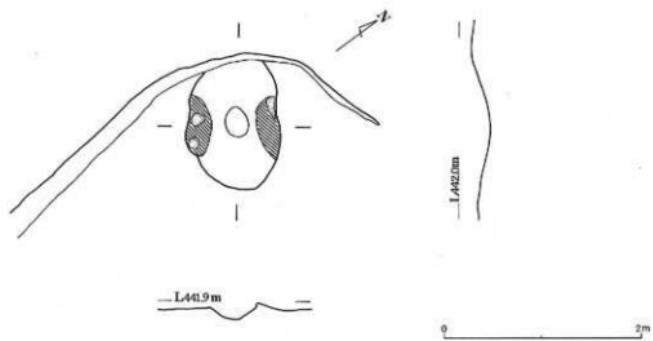
本跡は第3調査区南西のF-3区、G-3区に位置する。南北は5.9m、東西は6.1mの方形で北壁側に建替えの形跡またはテラスの様なものが確認できた。壁高は約0.4m。建物中央やや東寄りに川原石で固めて作った施設が出土した。内部からは炭化物などが出土したが炉として機能したものかは疑わしい。また、北西隅には0.1mほどの掘り込みで、火床を持ったカマドの様な施設も確認できた。なお、建物北側外には、建物に沿って弧を描く様に溝が配置されていたが、この建物に伴う施設かは不明である。

遺物

1~4はともに土師器で、5は陶器である。1、2が甕口縁で、3、4が体部である。外面は縦ハケ目、内面は横な仕上げ。5はすり鉢である。



第33図 HT-6(1)



第34図 HT-6(2)

## 時期不明

### 掘立柱建物跡

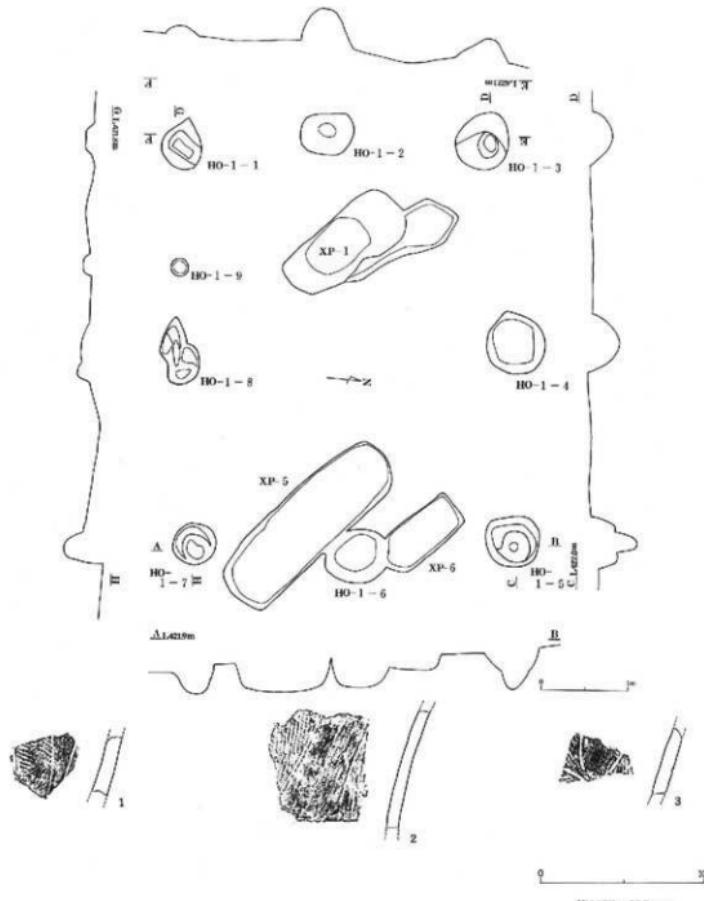
HO-1 (第2・3・35図、図版5・16)

#### 遺跡

本跡は第1調査区北西のAA-11区に位置する。規模は南北が約3.8m、東西は約4.8mで2間×2間の東西棟。

#### 遺物

1～3は縄文土器片で、いずれも深鉢である。1はHO-1-1、2はHO-1-2、3はHO-1-4から出土。3片は同一個体と思われる。



第35図 HO-1

## 穴 跡

XP-1 (第2・3・35図、図版5)

### 遺跡

本跡は第1調査区西のAA-11区に位置する。規模は2.15m×0.8mの長方形。深さは0.5m。

XP-2・3・4・15 (第2・3・36図、図版6)

### 遺跡

本跡は第1調査区西のAA-10、AA-11区に位置する。XP-3はXP-2・4と切り合っている。また、XP-4はXP-15と切り合っている。規模はXP-2が1.35m×0.5mの長方形で深さは0.3m。XP-3が1.45m×0.55mの長方形で深さは0.35m。XP-4が2.2m×0.5mの長方形で深さは0.45m。XP-15が1.55m×1.1mの長方形で深さは0.6m。

XP-5 (第2・3・35図、図版6)

### 遺跡

本跡は第1調査区西のAA-11区に位置する。規模は2.4m×0.8mの長方形。深さは0.4m。

XP-6 (第2・3・35図、図版6)

### 遺跡

本跡は第1調査区西のAA-11区に位置する。規模は1.05m×0.5mの長方形。深さは0.2m。

XP-7 (第2・3・36・41図、図版6・16)

### 遺跡

本跡は第1調査区西のAA-11区に位置する。規模は1.6m×0.6mの長方形。深さは0.4m。

### 遺物

1は弥生土器片で穿孔あり。

XP-8 (第2・3・36図)

### 遺跡

本跡は第1調査区西のAA-11区に位置する。規模は2.15m×0.7mの長方形。深さは0.3m。

XP-9 (第2・3・36図、図版6)

### 遺跡

本跡は第1調査区西のAA-12区に位置する。規模は1.5m×1.1mの長方形のものと、その内部にさらに東辺を接して約0.85m×0.7mの方形のものがある。深さは内部の方形底面で0.4m。長方形底面で0.2m。

XP-10 (第2・3・36図、図版6)

### 遺跡

本跡は第1調査区西のAA-13区、AB-13区に位置する。規模は1.05m×0.7mの長方形。深さは0.3m。

XP-11 (第2・3・36・41図、図版6・16)

遺跡

本跡は第1調査西のAA-13区に位置する。規模は $1.85\text{m} \times 0.6\text{m}$ の長方形。深さは0.1m。両端に直径約0.25m、深さ約0.25mの穴がある。

遺物

2は弥生土器片。

XP-12 (第2・3・36図、図版6)

遺跡

本跡は第1調査区西のAA-13区に位置する。規模は $1.6\text{m} \times 0.6\text{m}$ の長方形。深さは0.3m。

XP-13 (第2・3・36図、図版6)

遺跡

本跡は第1調査区西のAA-11区に位置する。規模は $1.4\text{m} \times 0.75\text{m}$ の長方形。深さは0.2m。

XP-14 (第2・3図、図版6)

遺跡

本跡は第1調査区西のAB-13区に位置する。直径が0.25mの円形。深さは0.22m。

XP-16 (第2・3・36図、図版6)

遺跡

本跡は第1調査区北西のAA-14区に位置する。規模は $0.6\text{m} \times 0.35\text{m}$ の長方形。深さは0.24m。

XP-17 (第2・3・36図、図版6)

遺跡

本跡は第1調査区北西のAA-14区に位置する。規模は $0.5\text{m} \times 0.4\text{m}$ の橢円形。深さは0.2m。

XP-18 (第2・3・36図、図版6)

遺跡

本跡は第1調査区北西のAA-14区に位置する。規模は $1.8\text{m} \times 0.4\text{m}$ の長方形。深さは0.35m。

XP-19 (第2・3・36図、図版6)

遺跡

本跡は第1調査区北西のAA-14区に位置する。規模は $1.25\text{m} \times 1.05\text{m}$ の長方形。深さは0.45m。

XP-20 (第2・4・37図、図版6)

遺跡

本跡は第2調査区西のAA-25区、AA-26区に位置する。直径が約1.25mの円形。深さは0.08m。

XP-21・42（第2・4・37図、図版6）

遺跡

本跡は第2調査区西のAA-25区に位置する。XP-21と42は切り合っており、XP-21の規模は $1.9\text{m} \times 0.6\text{m}$ の長方形。深さは0.2m。XP-42は $2.4\text{m} \times 0.8\text{m}$ の長方形。深さは0.7m。

XP-22（第2・4・37図、図版6）

遺跡

本跡は第2調査区西のAA-25区に位置する。規模は $1.3\text{m} \times 0.9\text{m}$ の長方形。深さは0.27m。

XP-23（第2・4・37図、図版6）

遺跡

本跡は第2調査区西のAB-25区に位置する。規模は $0.8\text{m} \times 0.7\text{m}$ の楕円形。深さは0.14m。

XP-24（第2・4・37図、図版6）

遺跡

本跡は第2調査区西のAB-25区に位置する。規模は $0.5\text{m} \times 0.45\text{m}$ の楕円形。深さは0.21m。

XP-25（第2・4・37図、図版7）

遺跡

本跡は第2調査区西のAB-25区に位置する。規模は $0.55\text{m} \times 0.4\text{m}$ の楕円形。深さは0.27m。

XP-26（第2・4・37図、図版7）

遺跡

本跡は第2調査区西のAB-25区、AC-25区に位置する。北側は調査区外。規模は約 $1.25\text{m} \times 0.7\text{m}$ の長方形。深さは0.42m。

XP-27（第2・4・37・41図、図版7・16）

遺跡

本跡は第2調査区西のAA-26区に位置する。直径が約1.25mの円形。深さは0.08m。

遺物

3、4は土師器甕体部。

XP-28・40・43（第2・4・37・41図、図版7・16）

遺跡

本跡は第2調査区西のAA-26区に位置する。XP-28・40・43は互いに切り合っており、XP-28は搅乱を受けている。規模は、XP-28が直径約1.1m、深さ0.5mの円形。XP-40が $3.6\text{m} \times 1.15\text{m}$ 、深さ0.13mの長方形。XP-43が $1.4\text{m} \times 1.2\text{m}$ 、深さ0.31mの方形。

遺物

XP-28出土の5は弥生土器片。

XP-29 (第2・4・38・41図、図版7・16)

遺跡

本跡は第2調査区西のAA-26区に位置する。直径が約1.35mの円形。深さは0.38m。

遺物

6、7は土師器で、6が甲斐型壺。体部内面に暗文。外面下半ヘラ削り。体部外面に墨書「□」。7は高台壺。体部内面、みこみ部に暗文。

XP-30 (第2・4・38・41図、図版7・16)

遺跡

本跡は第2調査区西のAA-27区、AB-27区に位置する。規模は約2.1m×1.2mの長方形。深さは0.4m。

遺物

8は土師器壺底部。

XP-31 (第2・4・38・41図、図版7・16)

遺跡

本跡は第2調査区北西のAA-27区に位置する。直径が約1.2mの円形。深さは0.48m。

遺物

9は須恵器壺底部で、底径7.2cm。

XP-32 (第2・4・38図、図版7)

遺跡

本跡は第2調査区北西のAA-27区に位置する。規模は約2.1m×1.05mの長方形。深さは0.38m。

XP-33 (第2・4・38・41図、図版7・16)

遺跡

本跡は第2調査区北西のAA-27区に位置する。直径が約1.15mの円形。深さは0.55m。

遺物

10は土師器壺底部で、墨書「□」。11は土師器壺底部、木葉痕あり。

XP-34 (第2・4・38・41図、図版7・16)

遺跡

本跡は第2調査区中央のAA-28区に位置する。直径が約1.6mの円形。深さは0.72m。

遺物

12は縄文土器。

XP-35 (第2・4・38・41図、図版7・16)

遺跡

本跡は第2調査区南西のAB-27区に位置する。直径が約1.25mの円形。深さは0.4m。

遺物

13は土師器壺口縁。

XP-36 (第2・4・38・41図、図版7・16)

遺跡

本跡は第2調査区南のAB-27区、AB-28区に位置する。直径が約1.3mの円形。深さは0.6m。

遺物

14、15は土師器で、16が須恵器体部。14は坏底部で糸切痕あり。

XP-37 (第2・4・38・41図、図版7・16)

遺跡

本跡は第2調査区南のAB-28区に位置する。直径が約1.25mの円形。深さは0.48m。

遺物

17は土師器で、甲斐型环。体部内面暗文、外面下半ヘラ削り。体部外面に墨書「□」。

XP-38 (第2・4・38図、図版7)

遺跡

本跡は第2調査区南のAB-27区に位置する。内部は一部袋状となっている。開口部は1.3m×1.1mの楕円形。底部は約1.2mの円形。深さは0.45m。

XP-39 (第2・4・21図)

遺跡

本跡は第2調査区北西のZ-26区、AA-26区に位置する。直径が約1.25mの円形。深さは0.48m。

XP-44 (第2・4・39・41図、図版7・16)

遺跡

本跡は第2調査区北西のZ-27区、AA-26区、AA-27区に位置する。規模は約4.75m×0.95mの長方形。深さは0.74m。

遺物

18は打製石斧。

XP-45 (第2・4・39図、図版7)

遺跡

本跡は第2調査区中央のAA-28区に位置する。南側に搅乱を受けている。規模は約1.2m×0.7mの長方形。深さは0.26m。

XP-46 (第2・4・39図)

遺跡

本跡は第2調査区南西のAC-26区に位置する。規模は2.2m×1.2mの長方形。深さは0.39m。

XP-47 (第2・4・39図)

遺跡

本跡は第2調査区南東のAB-30区に位置する。直径が約1.2mの円形。深さは0.42m。

XP-48 (第2・4・39図)

遺跡

本跡は第2調査区南東のAB-30区に位置する。直径が約1.2mの円形。深さは0.24m。

XP-49 (第2・4・39図)

遺跡

本跡は第2調査区南東のAB-30区に位置する。直径が約1.1mの円形。深さは0.2m。

XP-50 (第2・4・39図)

遺跡

本跡は第2調査区北西のAA-27区に位置する。規模は1.05m×0.85mの方形。深さは0.25m。

XP-51 (第2・4・39・41図、図版16)

遺跡

本跡は第2調査区東のAA-29区、AA-30区、AB-30区に位置する。規模は4.7m×0.6mの方形。深さは0.41m。

遺物

19は陶器。

XP-52 (第2・5・40図、図版8)

遺跡

本跡は第3調査区北のB-5区に位置する。規模は1.07m×1.06mの不整形方。深さは0.65m。

XP-53 (第2・5・40図、図版8)

遺跡

本跡は第3調査区南のH-3区、H-4区に位置する。規模は1.35m×1.1mの長方形。深さは0.25m。

XP-54 (第2・5・40図、図版8)

遺跡

本跡は第3調査区西のF-2区に位置する。規模は1.5m×約0.7mの長方形。深さは1m。

XP-55 (第2・6・40図、図版8)

遺跡

本跡は第4調査区北のAB-7区に位置する。直径が約1.2mの円形。深さは0.2m。

XP-56 (第2・6・40・41図、図版8・16)

遺跡

本跡は第4調査区北のAB-8区に位置する。直径が約1.1mの円形。深さは0.45m。

遺物

20は土師器で、壇底部。

XP-57 (第2・6・40図, 図版8)

遺跡

本跡は第4調査区東のAB-8区に位置する。規模は約0.9m四方の方形。深さは0.5m。

XP-58 (第2・6・40図, 図版8)

遺跡

本跡は第4調査区中央のAB-7区、AB-8区に位置する。直径が約1.35mの円形。深さは0.2m。

XP-59 (第2・6・40図, 図版8)

遺跡

本跡は第4調査区北東のAB-7区、AB-8区に位置する。規模は2.75m×0.6mの長方形。深さは0.15m。両端に約0.9m×0.6m、深さ0.6m、約1m×0.6m、深さ0.5mの穴がある。

遺物

21は土師器で、壺体部。外面ハケ目。

XP-60 (第2・6・40図, 図版8)

遺跡

本跡は第4調査区東のAB-8区に位置する。規模は2.5m×0.75mの長方形。深さは0.18m。端に約1m×0.75m、深さ0.6mの穴がある。

XP-61 (第2・6・40図, 図版8)

遺跡

本跡は第4調査区東のAB-8区に位置する。一部が調査区外に掛かっている。規模は1.2m×約0.8mの楕円形。深さは0.55m。

XP-62 (第2・6・41図, 図版8)

遺跡

本跡は第4調査区南のAD-8区に位置する。規模は1.35m×0.8mの楕円形。深さは0.3m。

XP-63 (第2・6・41図, 図版8)

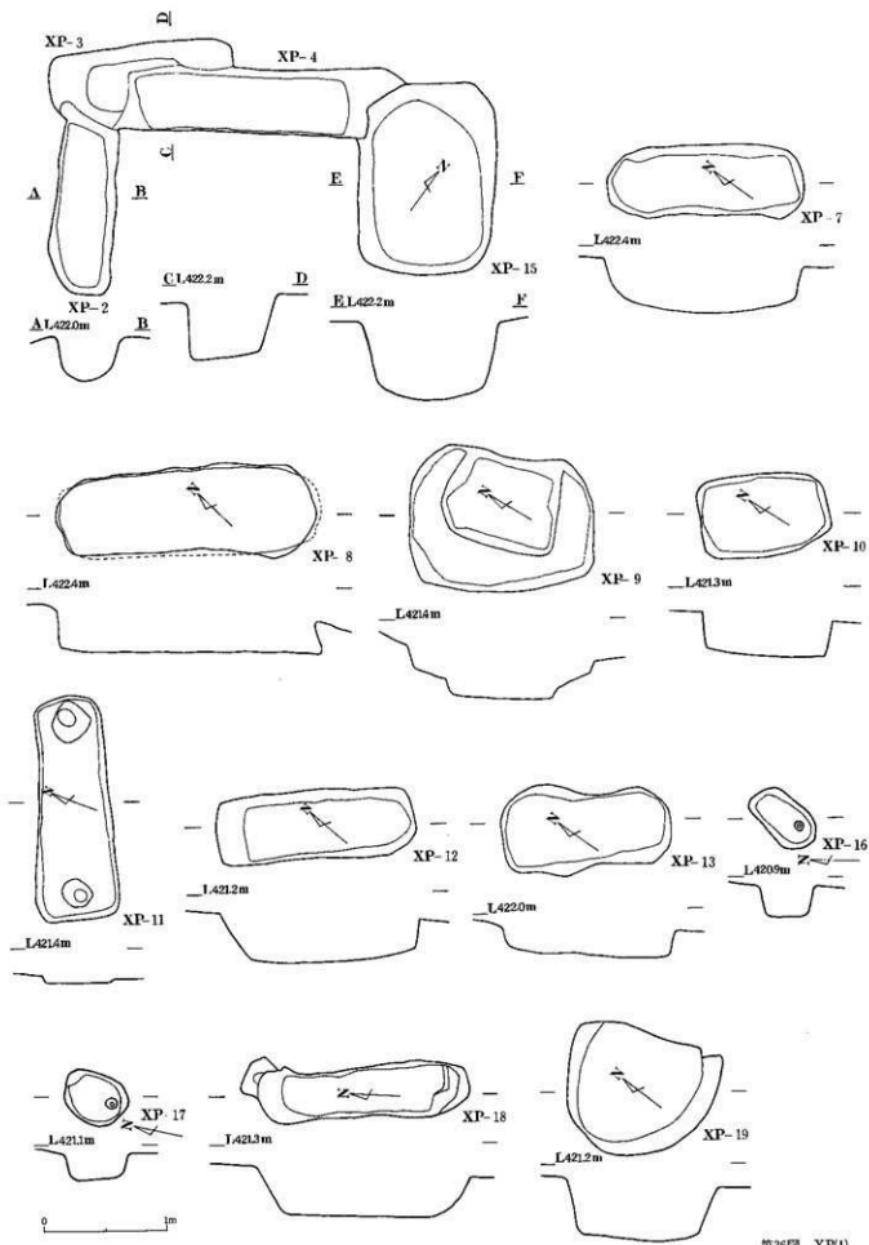
遺跡

本跡は第4調査区南のAD-7区に位置する。直径が約0.9mの円形。深さは0.2m。

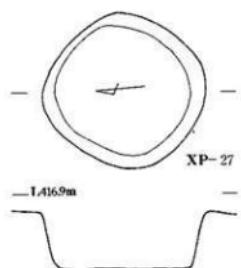
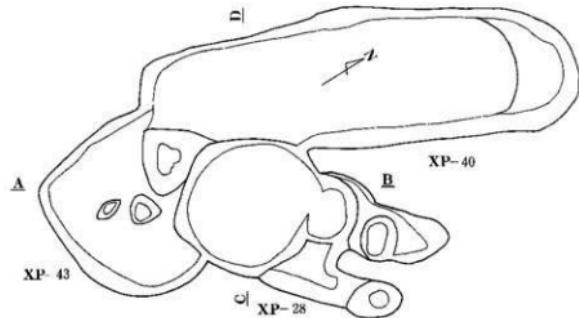
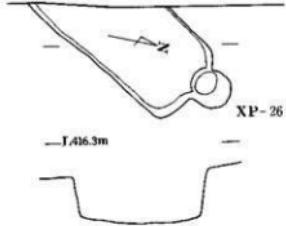
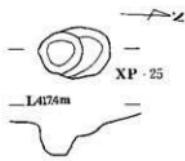
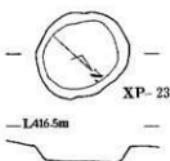
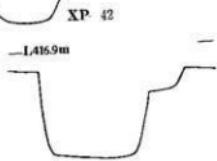
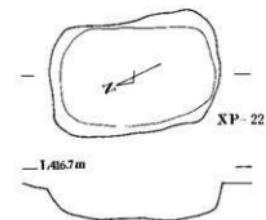
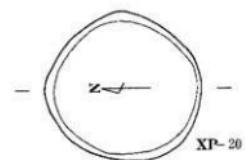
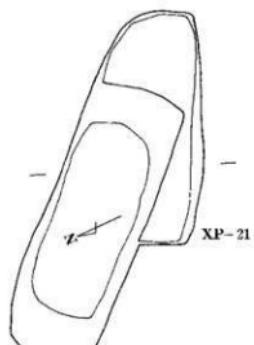
XP-64 (第2・6・41図, 図版8)

遺跡

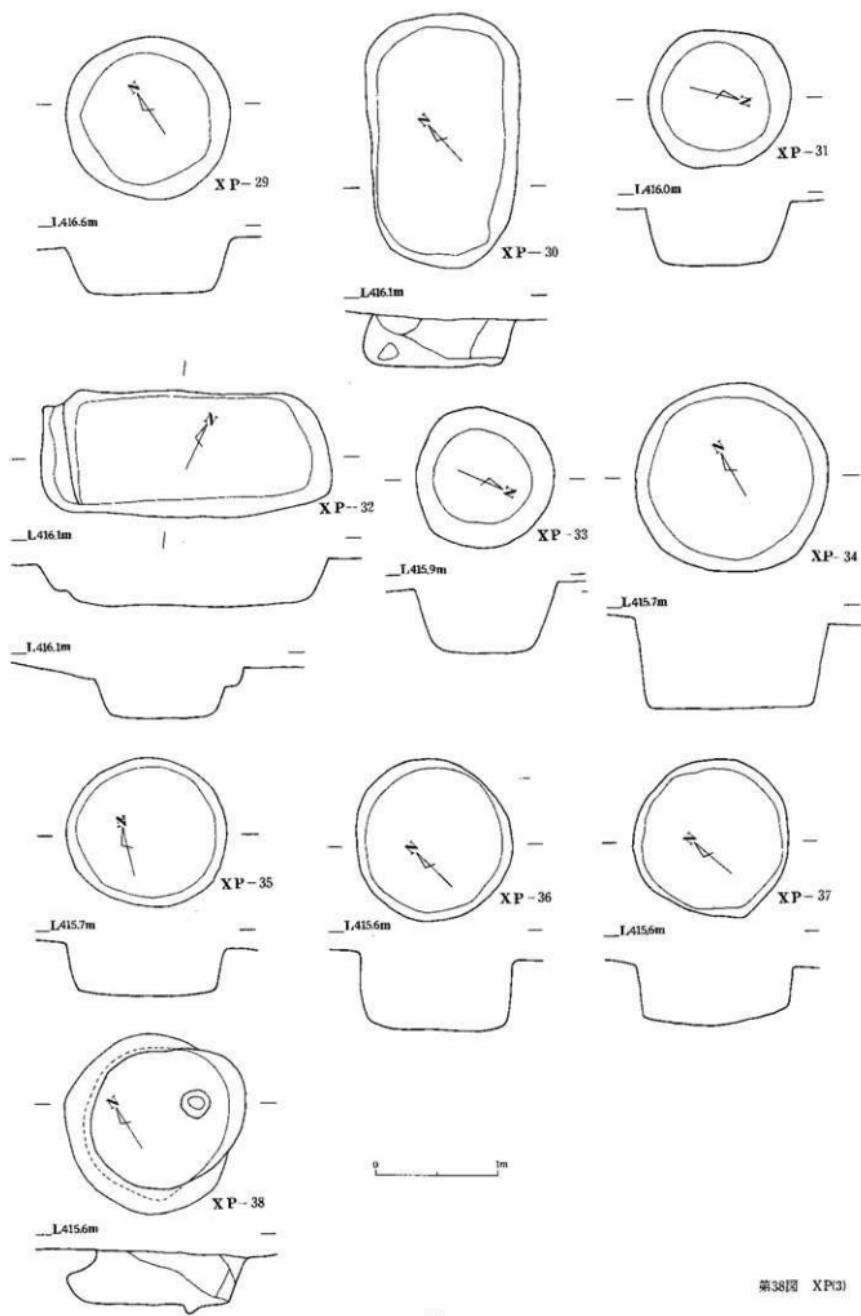
本跡は第4調査区南のAD-7区に位置する。規模は0.9m×0.7mの楕円形。深さは0.15m。



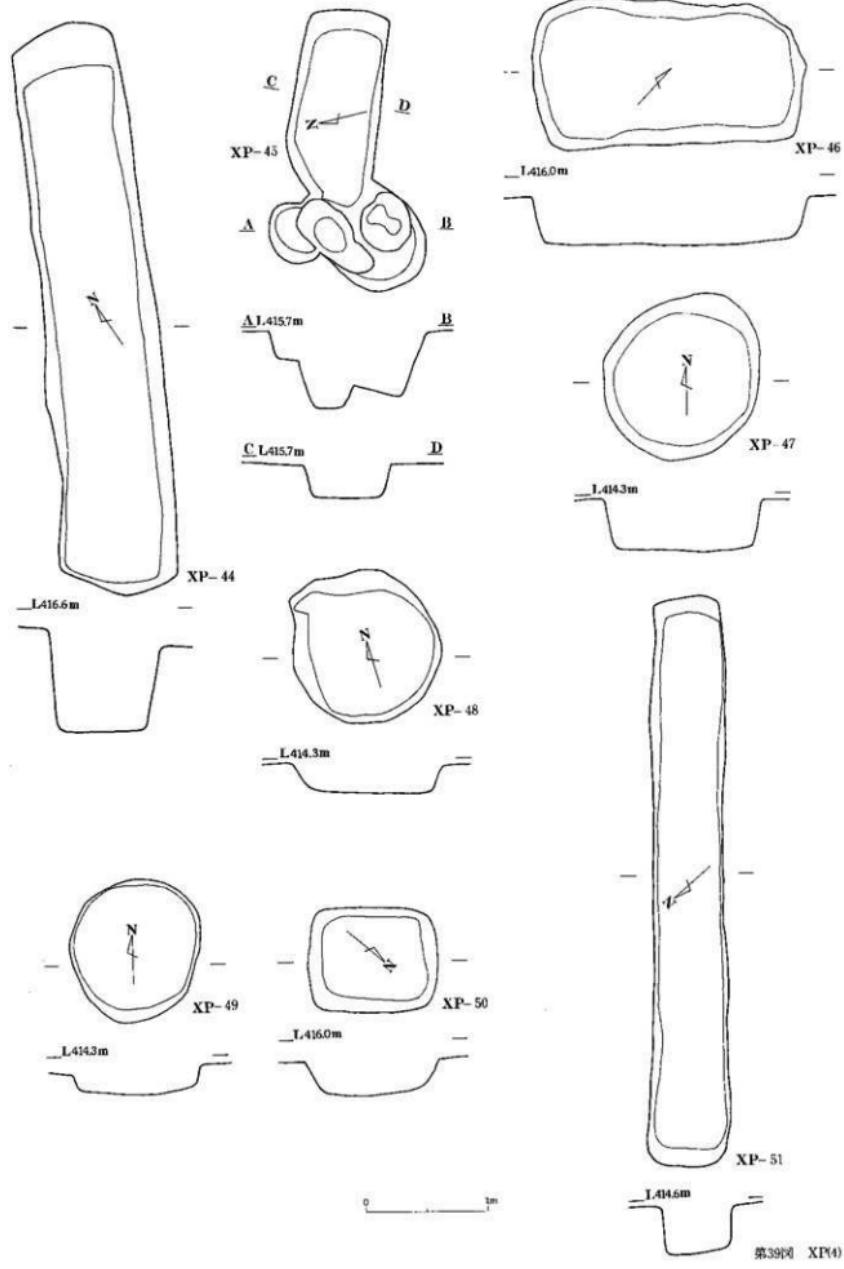
第36図 XP10

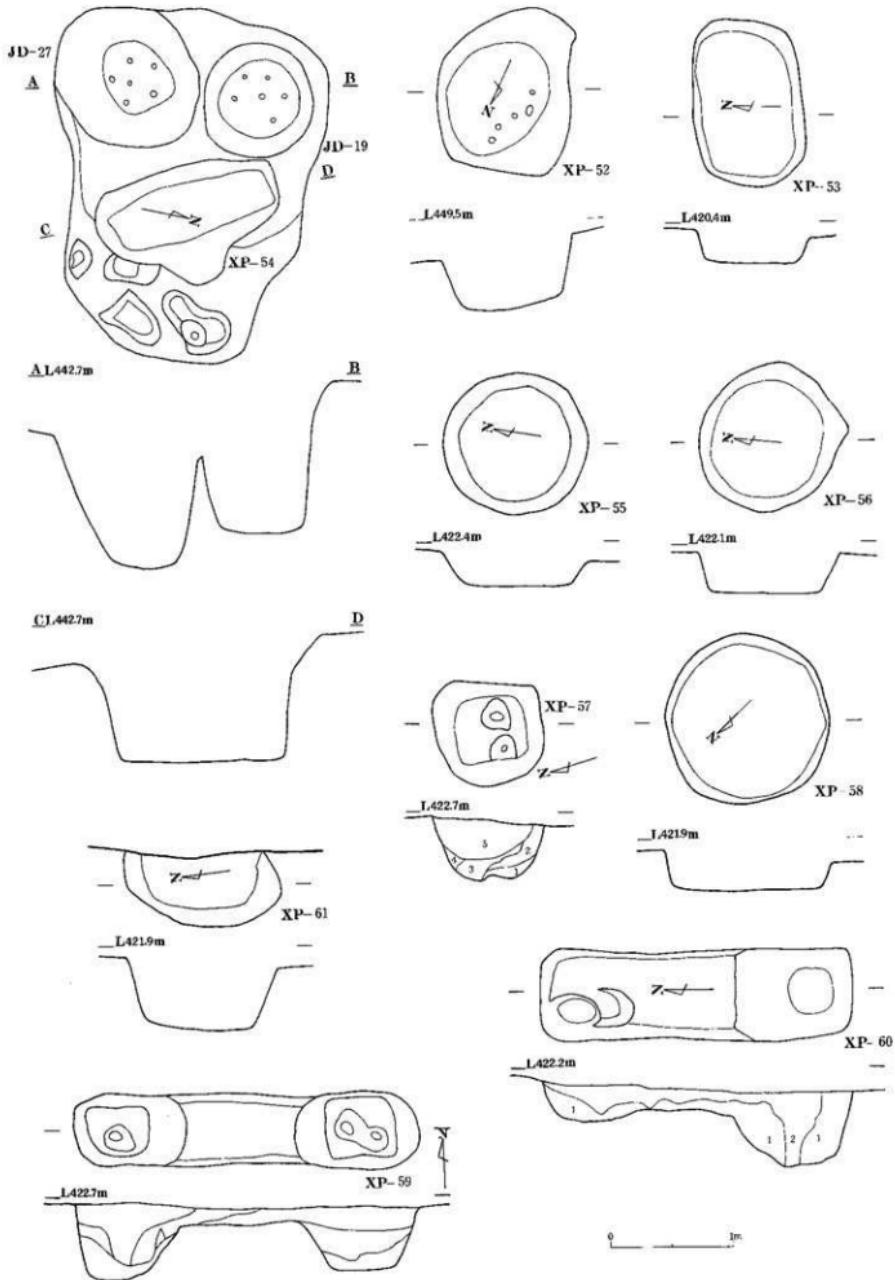


0 1m  
第37圖 XP(2)

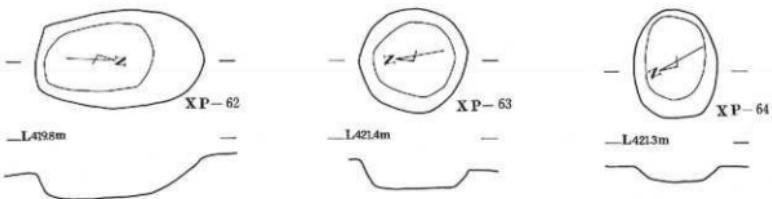


第38図 XP(3)

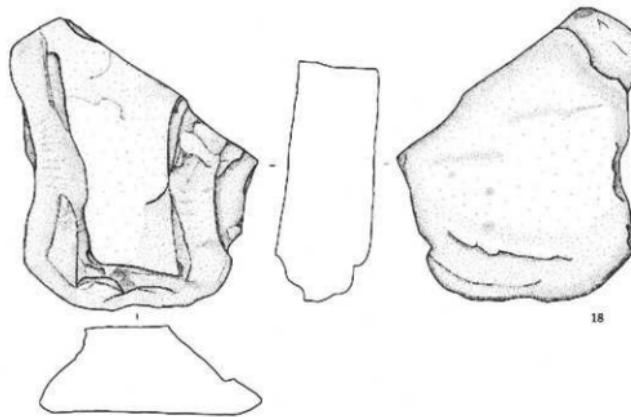
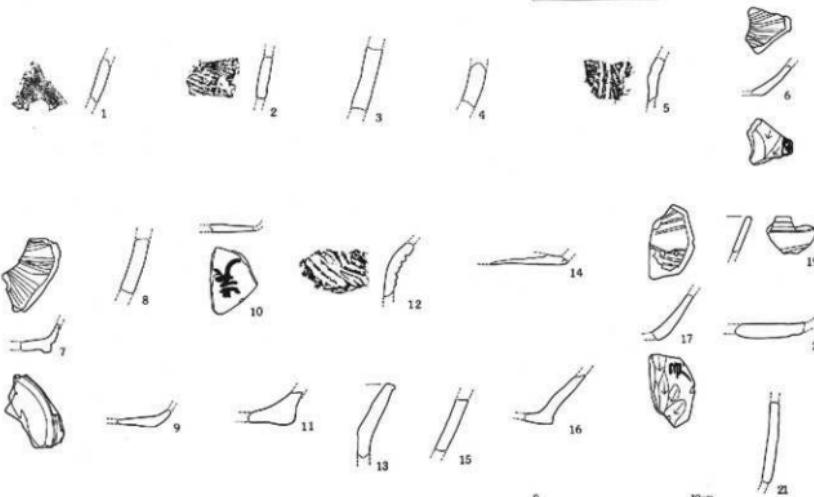




第40図 XP(5)



0 1m



第41図 XP6・XP出土遺物

## 溝 跡

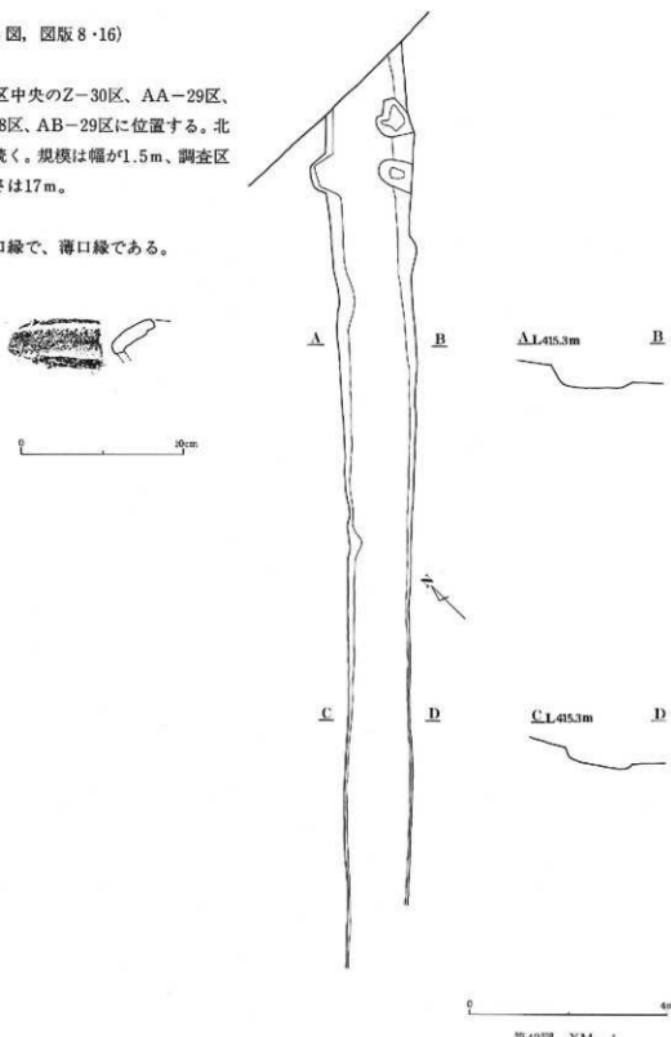
XM-1 (第2・4図、図版8・16)

### 遺跡

本跡は第2調査区中央のZ-30区、AA-29区、AA-30区、AB-28区、AB-29区に位置する。北側は調査区域外に続く。規模は幅が1.5m、調査区域内で確認した長さは17m。

### 遺物

1は土師器甕の口縁で、薄口縁である。



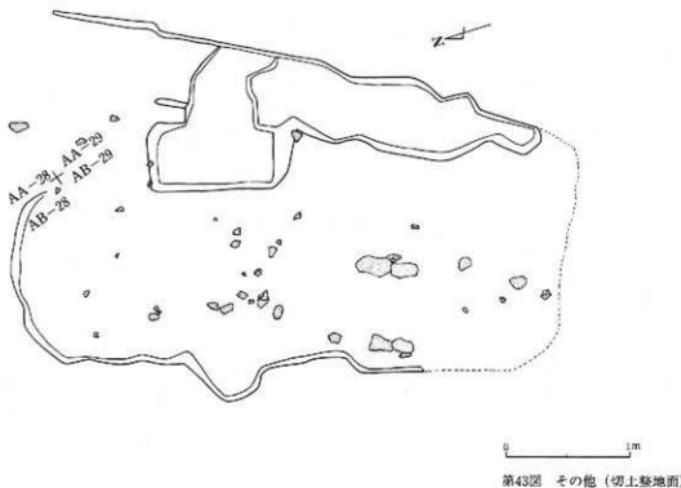
第42図 XM-1

## その他

切土整地面（第2・4・43図、図版8）

### 遺跡

本跡は第2調査区東のAA-28、AB-28区に位置する。切土整地面は南北が長軸の長方形で、東側をXM-1に切られている。また一部に擾乱を受けている。時期、性格ともに不明である。整地面上には配置されたと思われる石が数個確認できた。



第43図 その他（切土整地面）

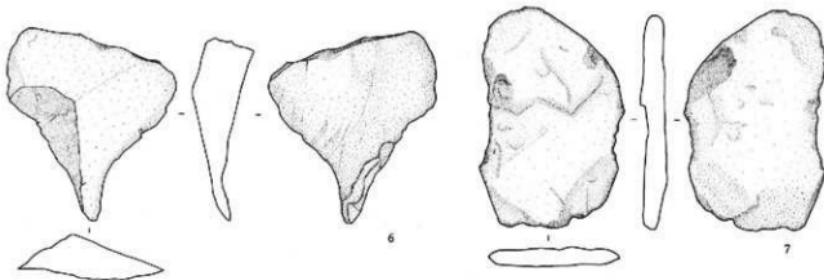
## その他

### 調査区内出土遺跡

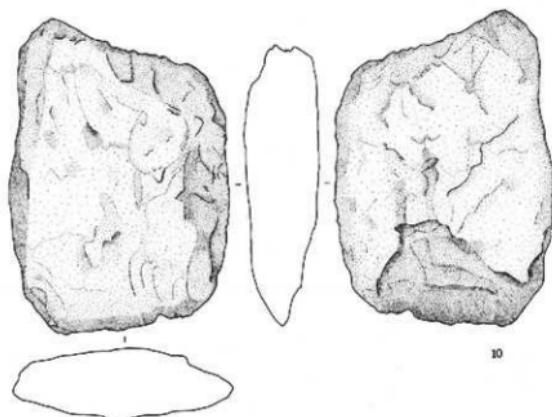
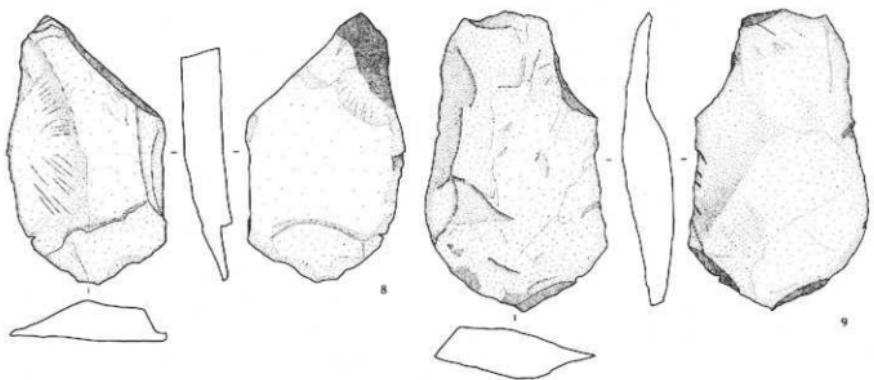
第1調査区（第2表、第2・3・44・45図、図版17）

No.	グリット	器種	器形	備考
1	表採	縄文	深鉢	
2	"	"	"	
3	"	"		
4	"	土師器	壺	
5	"	須恵器	壺	
6	"	石器		
7	"	"		
8	"	"		
9	"	"		
10	"	"		

第2表 第1調査区内出土遺物一覧表



第44図 第1調査区 調査区内出土遺物(1)



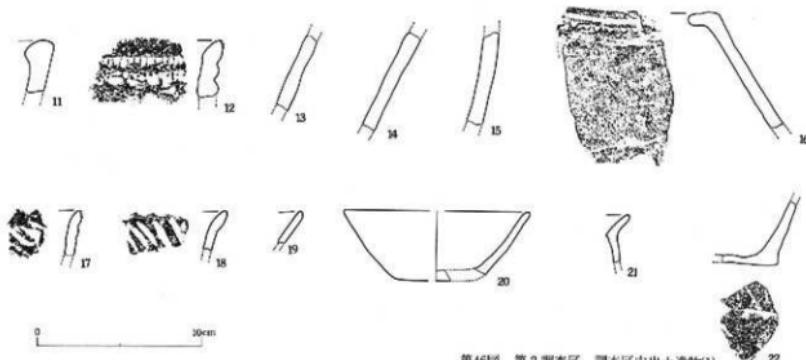
第45图 第1调查区 满查区内出土遗物(2)

0 5cm

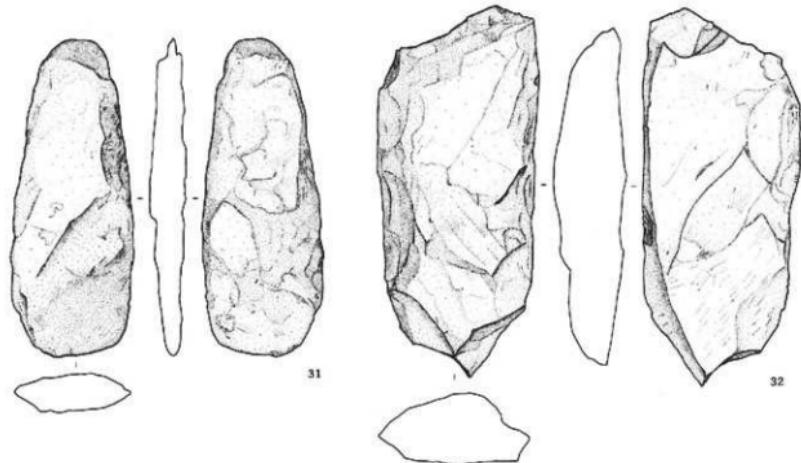
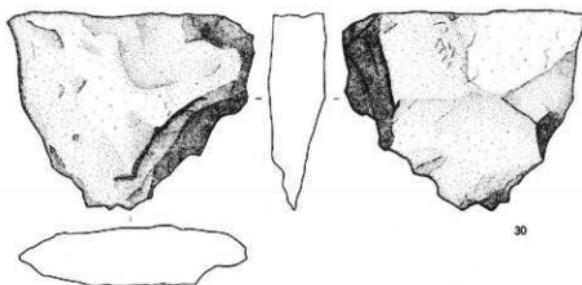
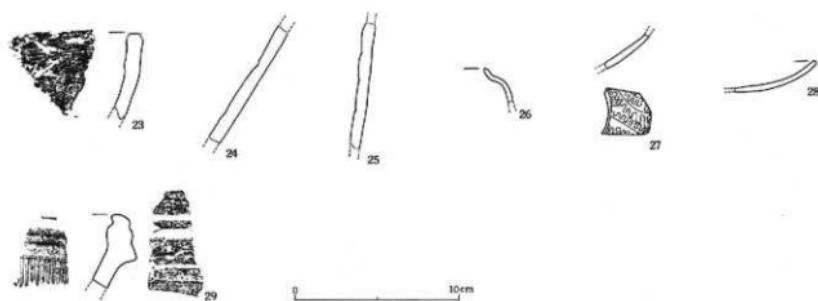
第2調査区（第3表、第2・4・46～49図、図版17・18）

No.	グリット	器種	器 形	備 考
11	AA-34	縄文土器	深鉢	
12	表探	"		
13	AA-32	"		
14	AA-35	"		
15	AA-37	"		
16	AC-13	"	浅鉢	
17	表探	弥生土器		
18	AB-32	"		
19	AA-34	土師器	壺	
20	AA-33	"	"	
21	表探	"	壺	
22	AB-31・35	"		底部木葉痕
23	表探			
24	AB-35・38	土師器		
25	AA-33			
26	AA-33	陶器		
27	表探	"		
28	AA-35	"		
29	表探	"	すり鉢	
30	AC-13	石器		
31	AA-34	"		
32	AA-35	"		
33	AA-37	"		
34	AB-33	"		
35	AB-33	"		
36	AB-33	"		
37	AB-37	"		
38	AA-34	"		
39	AA-34	石製品		
40	AB-34	黒曜石		

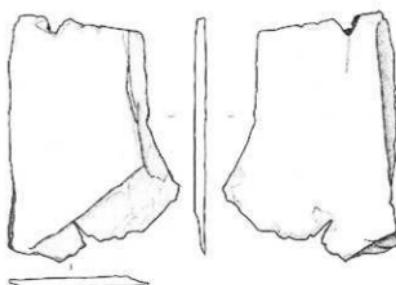
第3表 第2調査区内出土遺物一覧表



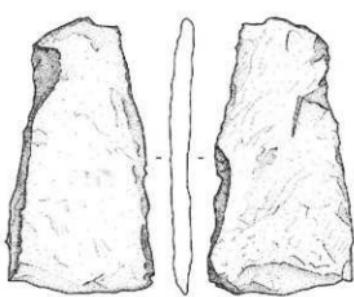
第46図 第2調査区 調査区内出土遺物(1)



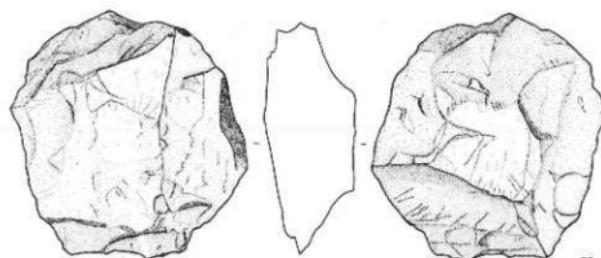
第47图 第2调查区 调查区内出土遗物(2)



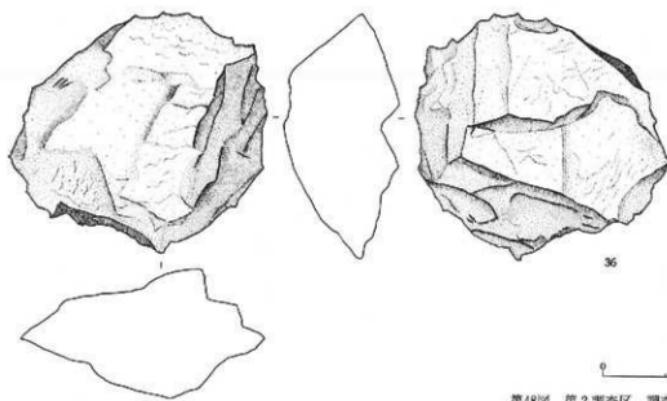
33



34



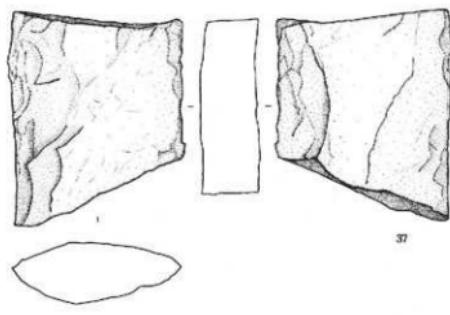
35



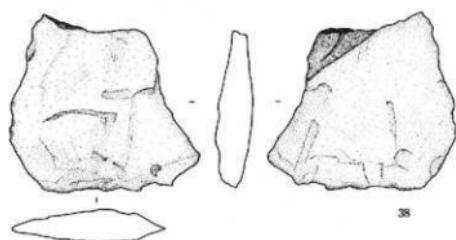
36

第48図 第2調査区 調査区内出土遺物(3)

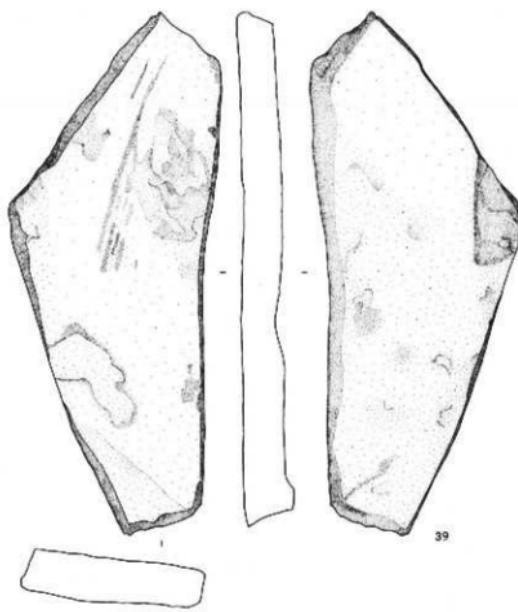
0 5cm



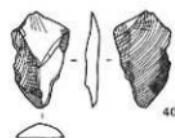
37



38



39



40

0 5cm

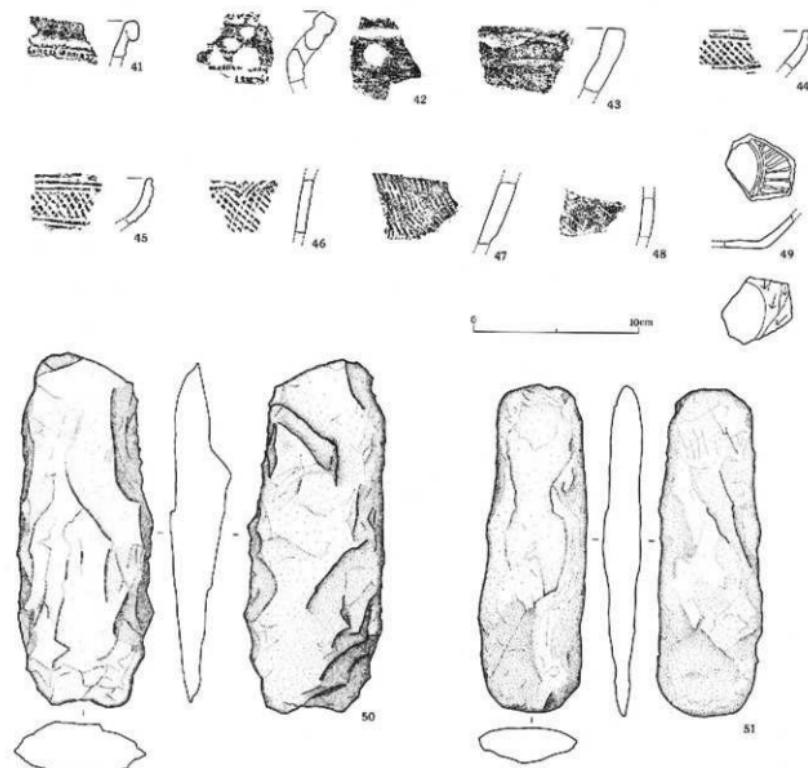
0 2cm

第49圖 第2洞查區 調查區內出土遺物(4)

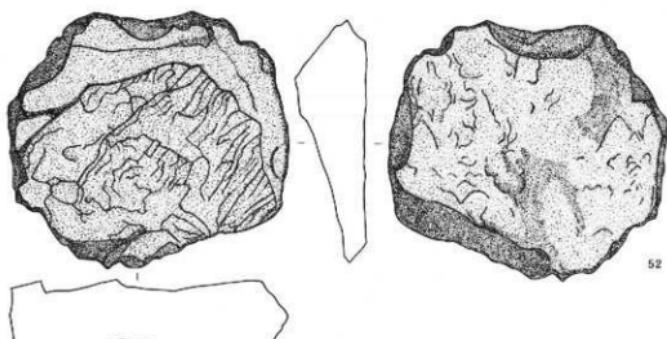
第3調査区(第4表、第2・5・50・51図、図版18)

No.	グリット	器種	器 形	備 考
41	表採	縄文土器	深鉢	
44	F-3	"		穿孔あり
43	G-2	"		
44	G-6	"		
45	H-3	"		
46	G-3	"		
47	H-3・4			
48	F-3	"		
49	表採	土師器	壺	
50	E-5	石器		
51	F-2	"		
52	表採	"		

第4表 第3調査区内出土遺物一覧表



第50図 第3調査区 調査区内出土遺物(1)



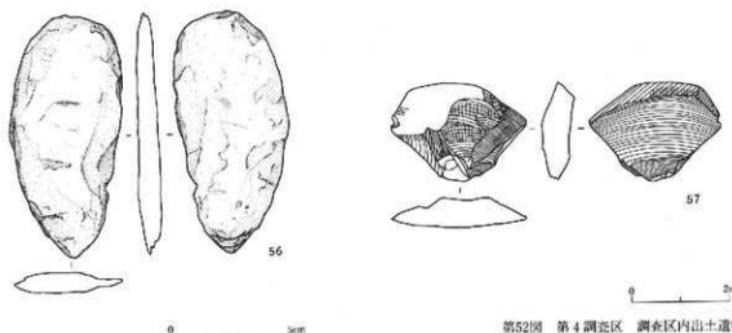
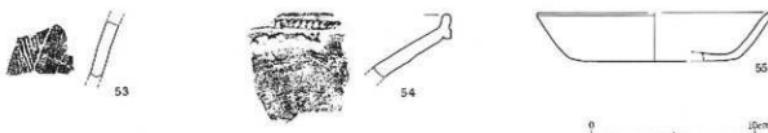
0 10cm

第51図 第3調査区 耕作区内出土遺物(2)

第4調査区（第5表、第2・6・52図、図版18）

No.	グリット	器種	器 形	備 考
53	AC-12・13・14	縄文土器	深鉢	
54	"	"		
55	"	土師器	壺	
56	"	石器		
57	"	黒曜石		

第5表 第4調査区内出土遺物一覧表



第52図 第4調査区 調査区内出土遺物

## 結び

今回の調査区域は、昭和58年（1983）～昭和60年（1985）の第3次・第4次調査で調査対象外となっていた遺跡の辺縁部におけるもので、それまでの調査結果から推察されている遺跡の広がりや時代の違いによる集落の分布を裏付ける調査として期待がもたれた。

遺跡の南に位置する第1調査区では、穴跡と掘立柱建物跡が出土した。過去の調査でもこの付近から北西の遺跡中央にかけて住居跡はほとんど出土していない。

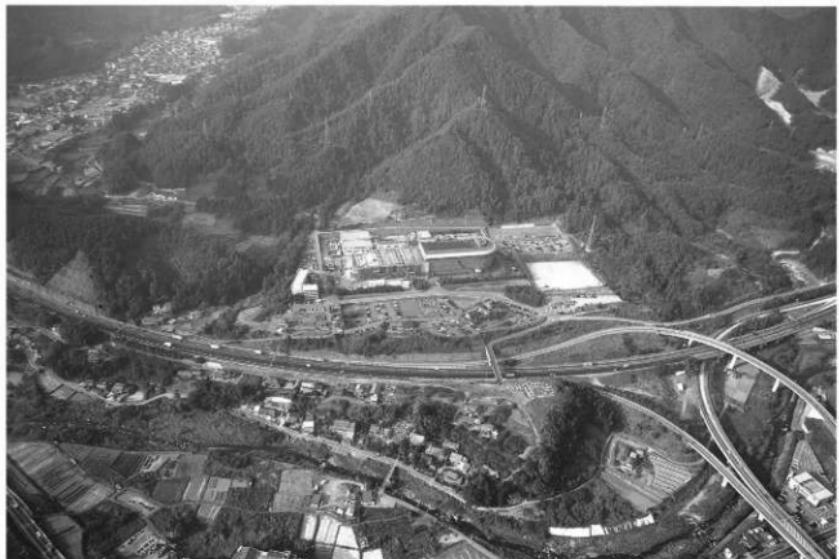
遺跡の南東に位置する第2調査区では、時間的な制約があり建設で影響を受ける深さという事で完全な調査を実施できなかった。調査結果としては、縄文時代早期末の住居跡1軒や平安時代9世紀末の住居2軒、性格不明の竪穴式建物跡1軒などが出土した。後に中央自動車道拉幅工事に伴い隣接地で行われた山梨県教育委員会による第6次調査の結果からは縄文時代早期末の住居跡6軒と平安時代の住居跡2軒が出土しており、第2調査区においても、下層まで調査を実施すればさらに出土軒数は増えるものと思われる。

遺跡の北に位置する第3調査区では、縄文時代中期の住居跡1軒や落とし穴27基、平安時代の住居跡1軒、性格不明建物跡1軒などが出土した。

遺跡の南や西に位置する第4調査区では、平安時代初めの住居跡1軒が出土した。

これまでの調査結果などから、縄文時代早期末の住居群は遺跡北西の標高435m付近より上を中心に分布すると思われていたが、遺跡南東部にも分布する事がわかった。また、中期の住居跡が西側に数群および中央やや北側に1群分布していた。なお、中期の住居跡を切って落とし穴群が西側の辺縁部微高地に約150mにわたって分布する事から、これらは中期以降、後期にかけてのものと考えられる。歴史時代の住居跡は、南西側から第4調査区までの部分と、第2調査区部分の遺跡南東側に分布していた。遺跡中央部分から第1調査区付近にかけては、住居跡などが存在しない区域となる。ここには第3次調査で井戸が確認されている事から、当時は中央付近がやや窪むような地形であった事が考えられる。

今回の調査からは上記のような結果が得られたが、第3次・第4次調査結果の集成などを合わせ、さらに検討する事で、全国的にも規模の大きい縄文早期末の集落像や中期集落群と落とし穴群の関係などが明らかになるものと思われる。



第1調査区（西から）



第2調査区（写真上が北）



第3調査区（写真上が南）



第4調査区（写真上が北）

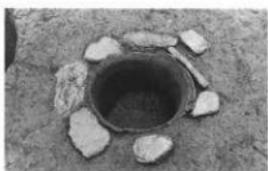
図版2



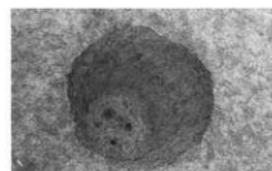
J T - 1



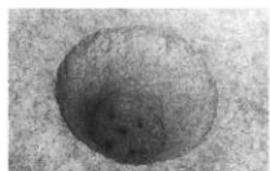
J T - 2



J T - 2 炉



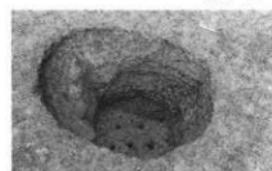
J D - 1



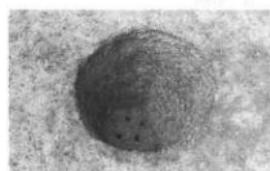
J D - 2



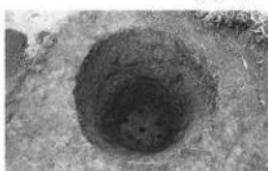
J D - 3



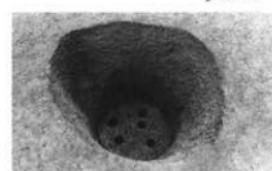
J D - 4



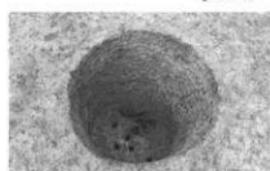
J D - 5



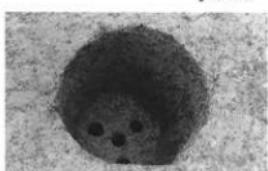
J D - 6



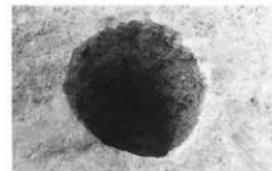
J D - 7



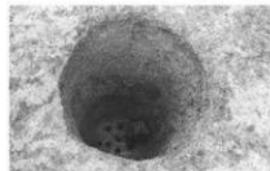
J D - 9



J D - 10



J D - 11



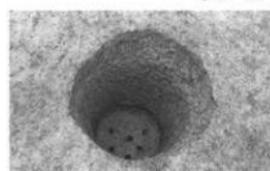
J D - 12



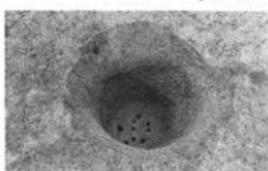
J D - 13



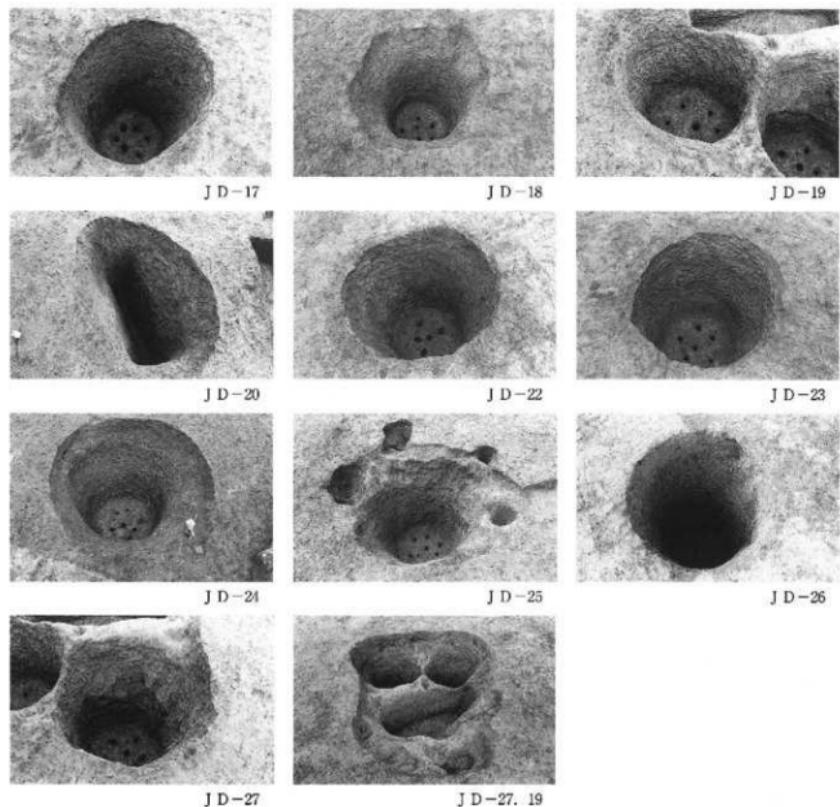
J D - 14



J D - 15



J D - 16



図版4



HT-2



HT-2 カマド



HT-3



HT-3 カマド



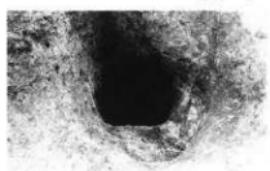
HT-4



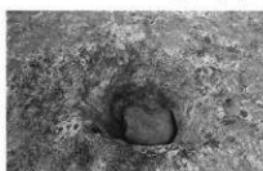
HT-4 炉



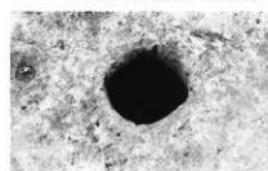
HT-4 内南穴 (石あり)



HT-4 内南穴



HT-4 内中央穴 (石あり)



HT-4 内中央穴



HT-4 内北穴 (石あり)



HT-4 内北穴



HT-5



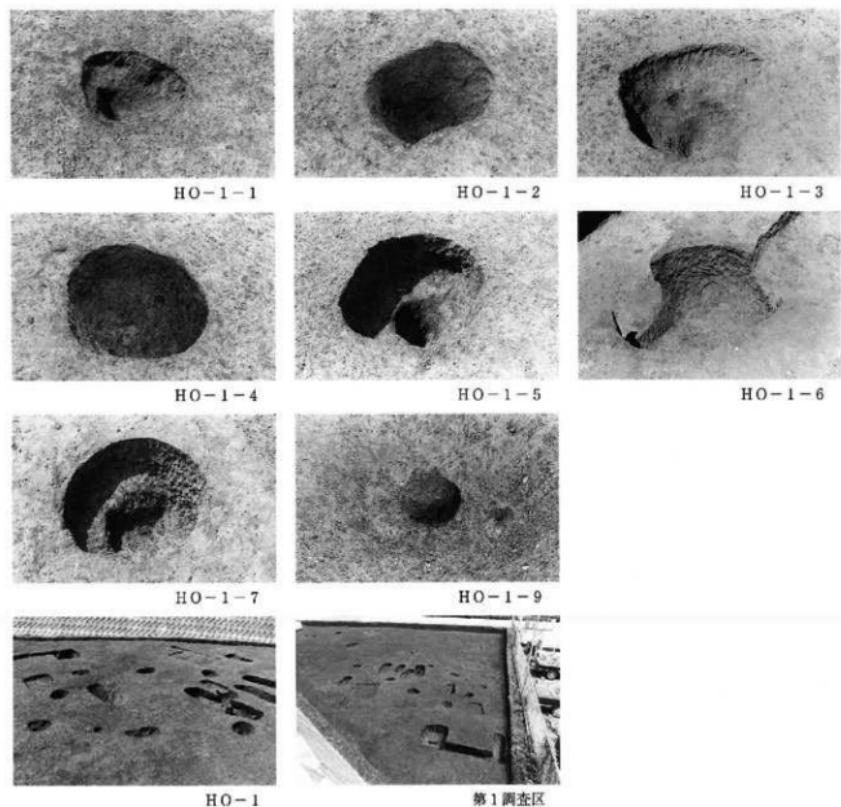
HT-5 カマド



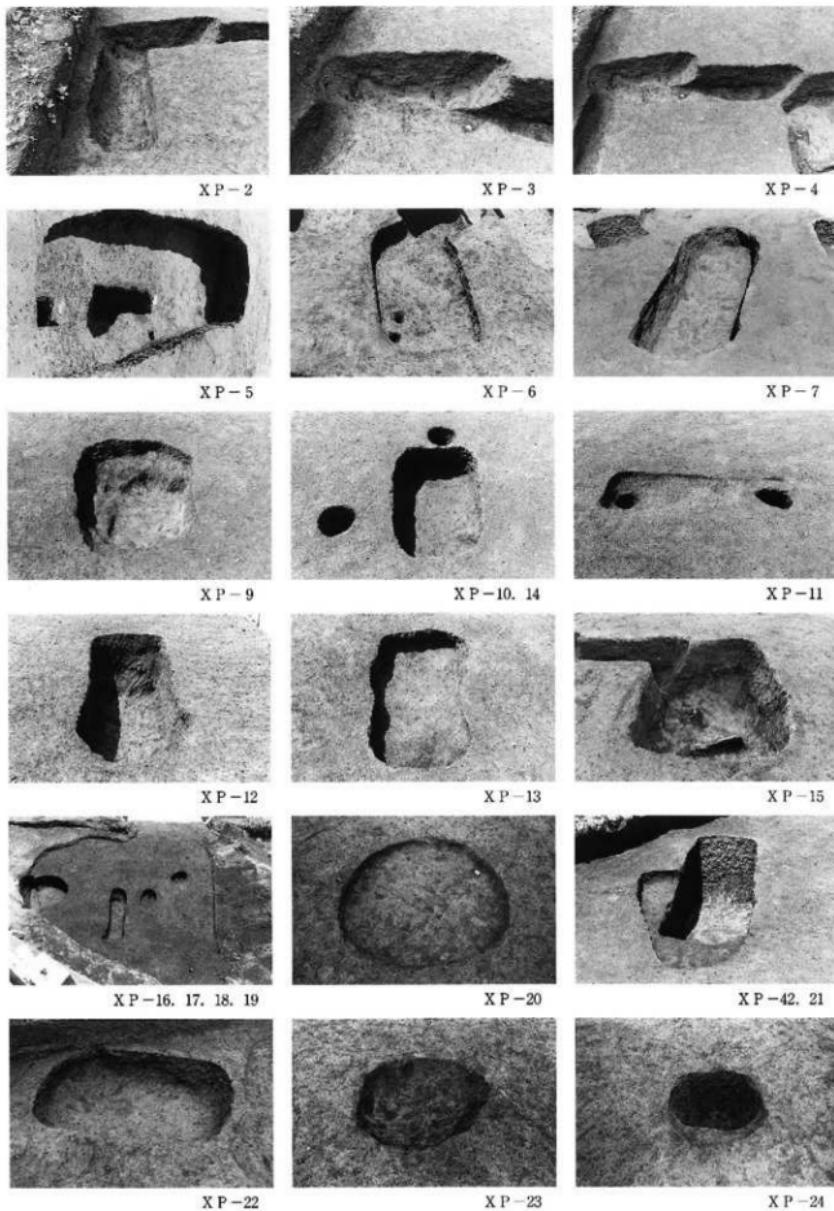
HT-5 内穴

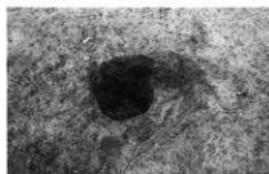


HT-6



図版6





X P - 25



X P - 26



X P - 27



X P - 28, 40, 43



X P - 29



X P - 30



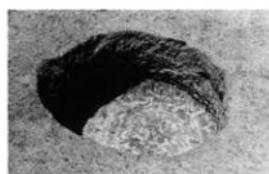
X P - 31



X P - 32



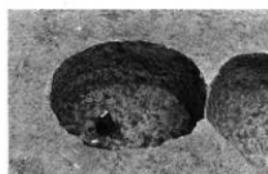
X P - 33



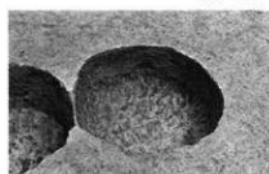
X P - 34



X P - 35



X P - 36



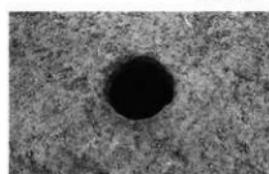
X P - 37



X P - 38



X P - 40



X P - 41

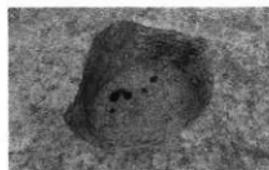


X P - 44



X P - 45

図版8



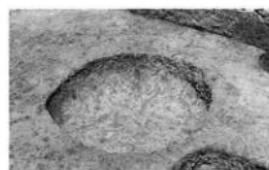
X P - 52



X P - 53



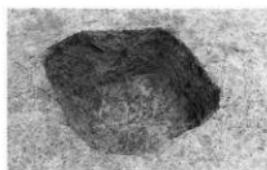
X P - 54



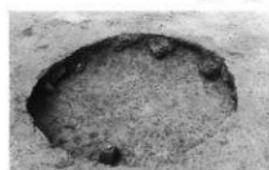
X P - 55



X P - 56



X P - 57



X P - 58



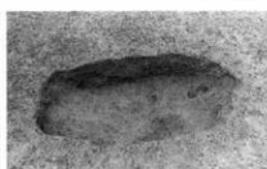
X P - 59



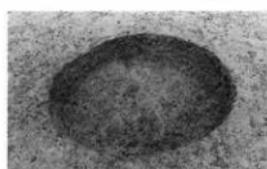
X P - 60



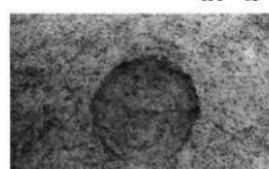
X P - 61



X P - 62



X P - 63

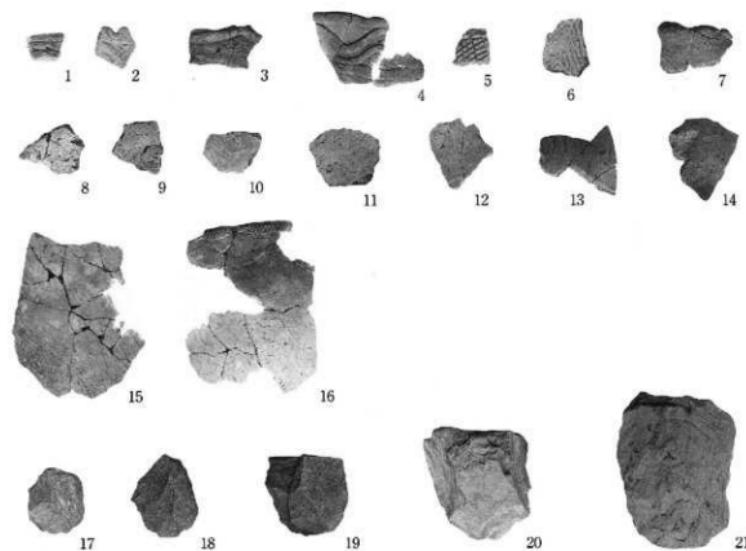


X P - 64

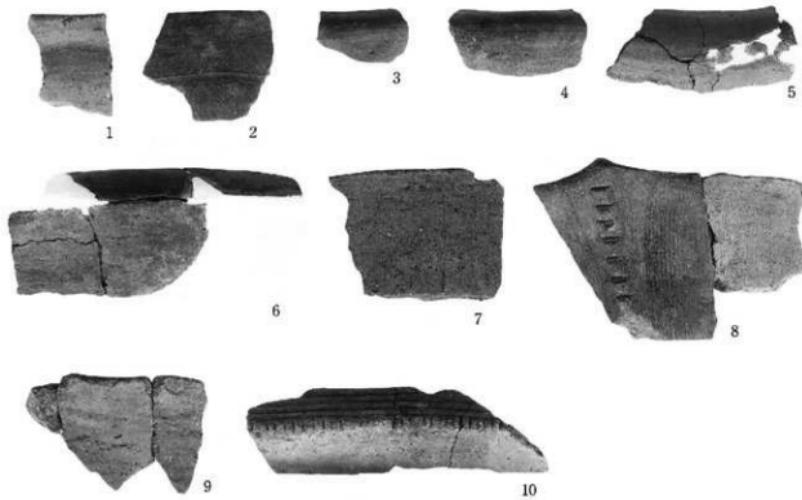


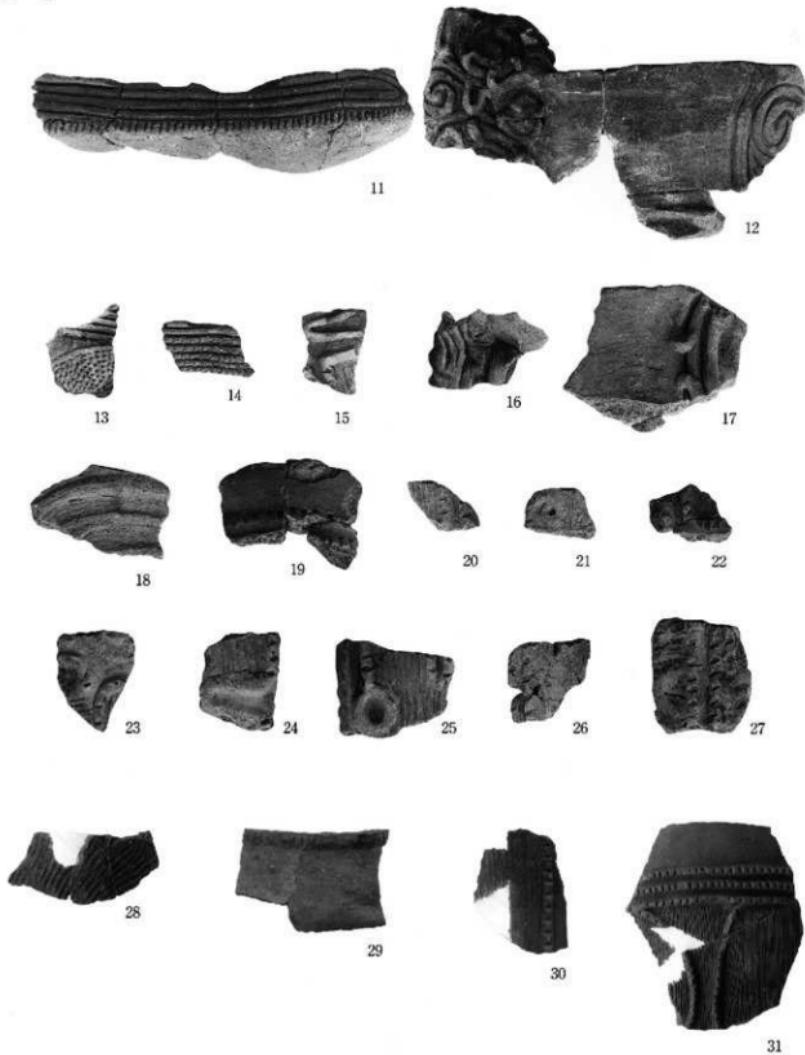
XM - 1 切土整地面

## J T - 1



## J T - 2





J T - 2



32



33



34



35



36



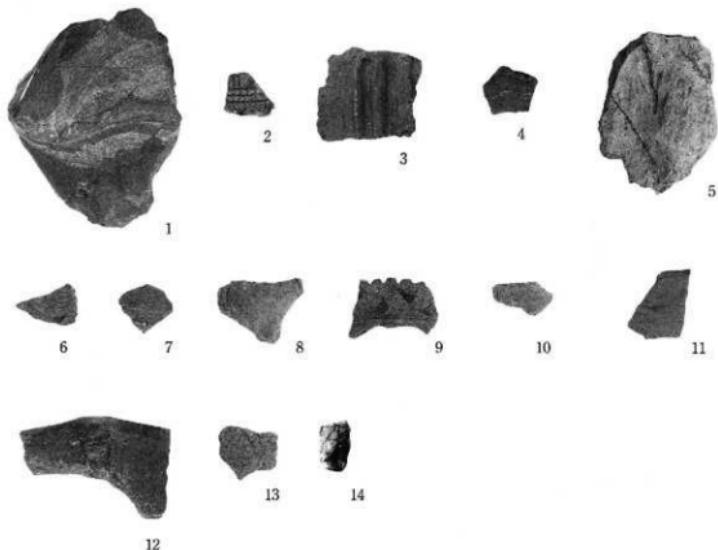
36



37

图版12

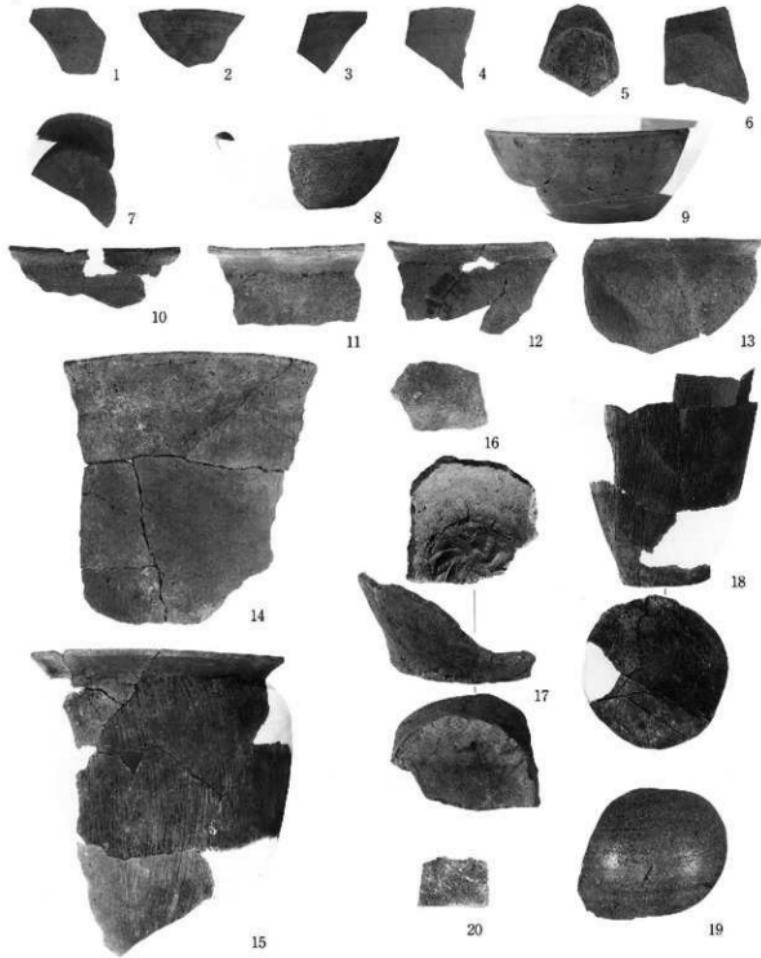
J D



HT-1



HT-2



圖版14

HT-3



HT-4



HT-5

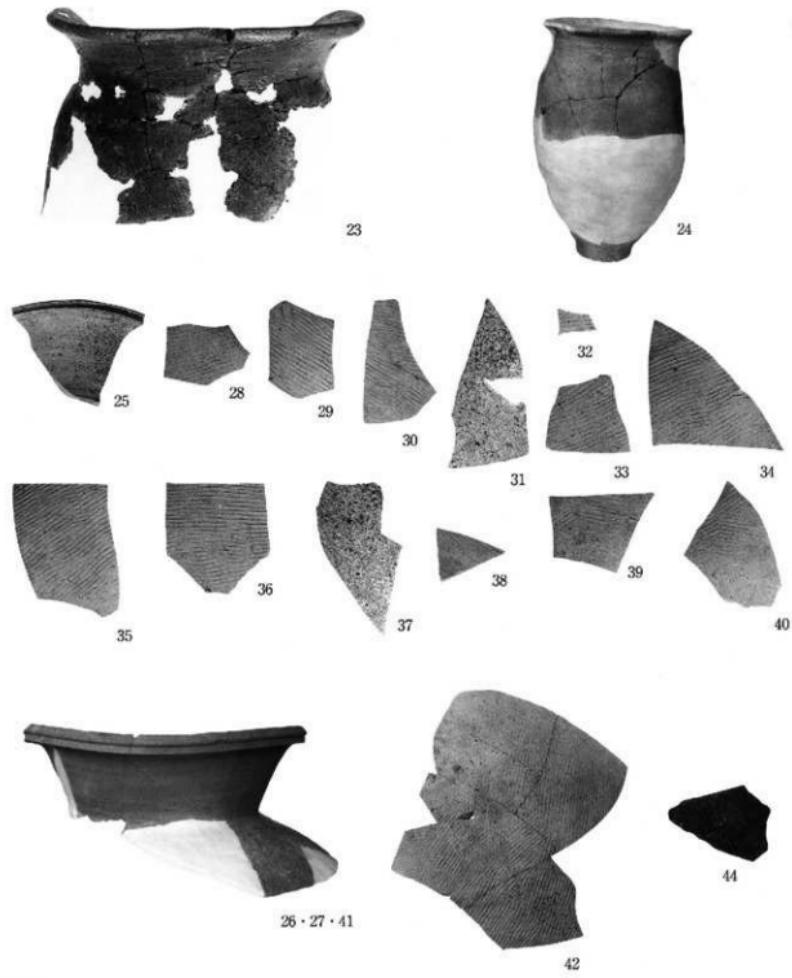


16



22

## HT-5



## HT-6

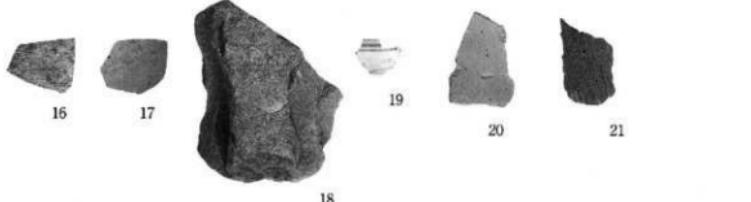


図版16

HO



XP



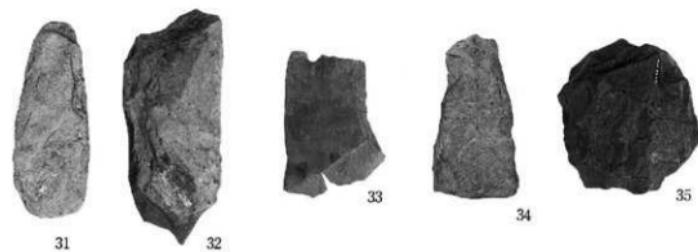
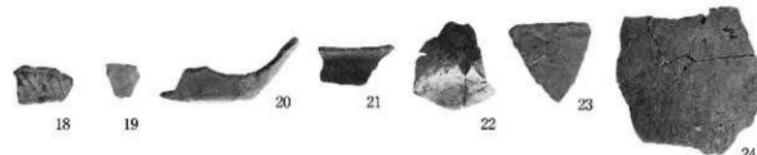
XM



## その他 1区

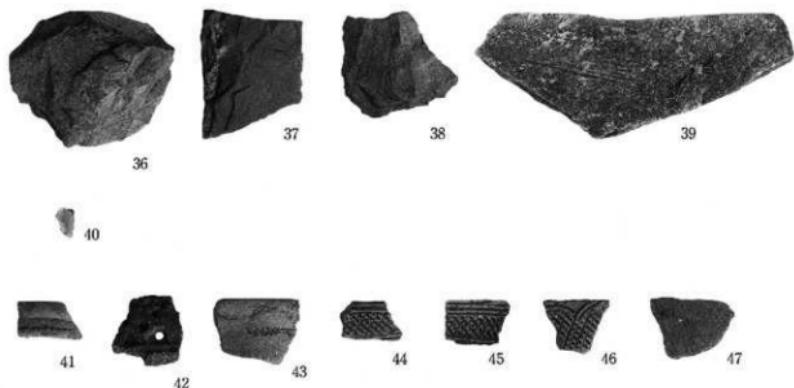


## その他 2区

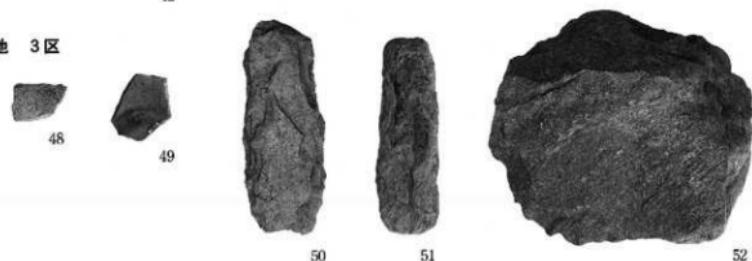


図版18

その他 2区



その他 3区



その他 4区



報告書概要

ふりがな	はらだいらいせき			
書名	原平遺跡発掘調査報告書			
副題	山梨日本電気株式会社大月工場2期棟建設による駐車場増設に伴う埋蔵文化財発掘調査			
編著者名	福田正人			
編集機関	大月市遺跡調査会			
所在地・電話番号	山梨県大月市大月二丁目6番20号			
発行者	大月市教育委員会・大月市遺跡調査会			
印刷所	鬼灯書籍株式会社			
印刷日・発行日	2002年9月30日			
所収遺跡	所在地		1/25,000地図名	
原平遺跡	大月市大月町真木字原平		大月	
	位 置			
	東経138° 54' 58"	北緯35° 36' 00"		
調査期間		調査面積	調査原因	
平成9年4月24日～同10月17日		7.148m <sup>2</sup>	駐車場建設	
種別	主な時代	主な遺構	特記事項	
集落	縄文 平安	住居跡 穴跡	縄文土器 石器 土飾器	

大月市埋蔵文化財報告書

2002年9月30日発行

原平遺跡

編集 大月市遺跡調査会

大月市大月2-6-20

Tel 0554-22-2111

発行 大月市教育委員会・大月市遺跡調査会

印刷 鬼灯書籍株式会社

